

令和7年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

作業療法学科

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

目 次

令和7年度 カリキュラム

作業療法学科カリキュラム	1
--------------------	---

令和7年度 授業概要

基礎分野

科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	3
----------------------------	---

専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達	12
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	23
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	35

専門分野

基礎作業療法学	38
作業療法管理学	43
作業療法評価学	45
作業療法治療学	50
地域作業療法学	69
臨床実習	73

令和7年度

カリキュラム

3年制作業療法学科カリキュラム(令和5年度・6年度入学生対象)

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位	心 理 学	2	15	30					
		情 報 科 学	1	30	30					
		論 理 学	2	15	30					
		社 会 学	2	15	30					
		人 間 工 学	2	15	30					
		コミュニケーション論演習Ⅰ	1	30	30					
		コミュニケーション論演習Ⅱ	1	30			30			
		健 康 科 学	1	30	30					
		英 語	2	15		30				
	基 礎 分 野 合 計			14		210	30	30	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	上 肢 解 剖 運 動 学Ⅰ	1	30	30					
		上 肢 解 剖 運 動 学Ⅱ	1	30	30					
		下 肢 体 幹 解 剖 運 動 学	1	30	30					
		解 剖 運 動 学 演 習	1	30		30				
		内 臓 学	1	30	30					
		解 剖 学 実 習	1	30		30				
		運 動 生 理 学Ⅰ	1	30	30					
		運 動 生 理 学Ⅱ	1	30	30					
		運 動 生 理 学Ⅲ	1	30		30				
		運 動 生 理 学 演 習	1	30		30				
		人 間 発 達 学	2	15	30					
		小 計	12		210	120	0	0	0	0
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	病 理 学	1	30			30			
		臨 床 心 理 学	1	30		30				
		一 般 臨 床 医 学Ⅰ	2	15		30				
		一 般 臨 床 医 学Ⅱ	2	15		30				
		内 科 学	1	30		30				
		整 形 外 科 学Ⅰ	1	30		30				
		整 形 外 科 学Ⅱ	1	30			30			
		神 経 病 学Ⅰ	1	30		30				
		神 経 病 学Ⅱ	1	30			30			
		精 神 医 学	1	30		30				
		健 康 管 理 学	1	30		30				
		老 年 学	1	30			30			
		小 計	14		0	240	120	0	0	0
		保健医療福祉とリ ハビリテーションの 理念 4単位	リハビリテーション医学概論	1	30	30				
	保 健 医 療 福 祉 連 携 論		1	30			30			
	地 域・国 際 コ ミ ュ ニ テ ィ 論		2	15			30			
	小 計		4		30	0	60	0	0	0
	専 門 基 礎 分 野 合 計			30		240	360	180	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。臨床実習:45時間1単位

作業療法学科カリキュラム

分野	教育内容		単位 数	単位 時間	1年		2年		3年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野 64単位	基礎作業療法学 5単位	作業療法概論Ⅰ	1	30	30					
		作業療法理論	1	30				30		
		基礎作業学	1	30		30				
		基礎作業学実習Ⅰ	1	30			30			
		基礎作業学実習Ⅱ	1	30				30		
		小計	5		30	30	30	60	0	0
	作業療法管理学 2単位	作業療法管理学Ⅰ	1	30			30			
		作業療法管理学Ⅱ	1	30				30		
		小計	2		0	0	30	30	0	0
	作業療法評価学 5単位	作業療法評価学概論	1	30		30				
		運動器作業療法評価学	1	30			30			
		神経筋作業療法評価学	1	30			30			
		作業療法評価学演習Ⅰ	1	30				30		
		作業療法評価学演習Ⅱ	1	30				30		
		小計	5		0	30	60	60	0	0
	作業療法治療学 19単位	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		内部疾患作業療法学	1	30			30			
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		発達障害作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		精神障害作業療法学概論	1	30		30				
		精神障害作業療法学Ⅰ	1	30			30			
		精神障害作業療法学Ⅱ	1	30				30		
		高齢期作業療法学	1	30				30		
		生活行為学Ⅰ	1	30		30				
		生活行為学Ⅱ	1	30			30			
		生活行為向上マネジメント学	1	30				30		
		義肢学	1	30			30			
		装具学実習	2	30				60		
		作業療法総合論	2	30						60
		小計	19		0	60	210	240	0	60
	地域作業療法学 4単位	住環境整備論	1	30				30		
		地域作業療法学	1	30				30		
		福祉用具学	1	30				30		
		就労支援技術論	1	30				30		
		小計	4		0	0	0	120	0	0
	臨床実習 25単位	見学実習Ⅰ	1	45	45					
		見学実習Ⅱ	1	45		45				
		評価実習	3	45				135		
		総合臨床実習Ⅰ	10	45					450	
		総合臨床実習Ⅱ	10	45						450
		小計	25		45	45	0	135	450	450
	専門分野合計		60		75	165	330	645	450	510
	総合計		104	3225	525	555	540	645	450	510

※講義、演習は15～30時間で1単位。実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。臨床実習:45時間1単位

令和7年度

授 業 概 要

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
心理学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一	
授 業 の 概 要					
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。第1回～第13回は、心理学の基礎について概説し、第14回・第15回は、国家試験過去問題を解いて全体のまとめとするとともに国家試験合格への意識付けを行う。					
授業終了時の到達目標					
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。				
時間外に必要な学修					
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。					
回	テ ー マ		内 容		
1	ガイダンス 心理学とは		心理学を学ぶことの目的 心理学の各領域の紹介		
2	知覚		知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
3	学習		学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
4	動機付け		生理的動機付け、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど		
5	記憶		記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
6	発達		発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
7	青年		青年期とは、友情と恋愛 アイデンティティの探求、青年期の時間的展望		
8	性格 1		性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
9	性格 2		性格検査（質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト）		
10	自己		自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己		
11	家族		家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理		
12	こころの病気と健康		こころの健康性、精神障害 思秋期・青年期の心の病理		
13	社会		対人認知、コミュニケーションと対人行動		
14	まとめ 1		国家試験過去問題の解説（心理テスト、防衛機制など）		
15	まとめ 2		国家試験過去問題の解説（エリクソンの発達課題など）		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
はじめてふれる心理学第3版 （サイエンス社）			期末試験	100%	授業内に1度は発言 する機会を設ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報科学		作業療法学科／1年	2024／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井内 健二
授 業 の 概 要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報を I T（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、W e b上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
時間外に必要な学修				
テキストの予習と復習し練習問題を自習すること。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍法		
2	Wordの基礎知識 文字の入力	ミカタイプの使い方、タイピング練習、文字入力の練習と確認、IMEについて		
3	文書の作成	ページ設定、文章を入力、あいさつ文の挿入、記書きの入力		
4	文書の作成	範囲を選択、文字を削除・挿入、文字をコピー・移動、文字の配置、インデント、段落番号、フォントの設定、上書き保存、印刷		
5	表の作成	表の作成、表の範囲を選択、表のレイアウト変更、表に書式を設定、表にスタイルを適用、段落罫線を設定		
6	文書の編集	均等割り付け、囲い文字、ルビ、文字の効果、書式のコピー・貼り付け、行間、タブとリーダー、段組みの設定		
7	表現力をアップする機能 Excelの基礎知識	テーマを適用、ワードアートを挿入、ワードアートのサイズ変更と移動、画像の挿入、図形を作成、アイコンの挿入、ページ罫線を設定		
8	Excelの基礎知識 データの入力、表の作成	Excelの起動、EXCELのが画面構成、エクセルの表示モード、シートの挿入、切り替え、削除、データの入力、数式の入力と再計算		
9	数式の入力 表の印刷	データの編集、セル範囲を選択、ブックを上書き保存、印刷、オートフィルを利用		
10	表の作成	関数を入力、罫線や塗りつぶし、表示形式、配置、文字の書式、列の幅や行の高さを設定、行を削除・挿入、列の非表示・再表示		
11	表の作成	いろいろな関数を利用、相対参照と絶対参照を使い分ける 名前を付けて保存、印刷		
12	PowerPointの基礎知識 基本的なプレゼンテーションの作成	PowerPointの基礎知識、PowerPointの画面構成、新しいプレゼンテーションを作成、プレースホルダを操作、新しいスライドを挿入、箇条書きテキストを入力、文字や段落に書式を設定、プレゼンテーションの構成を変更、スライドショーを実行、保存		
13	表の作成 グラフの作成	表の作成、行列を操作、表に書式を設定、名前を付けて保存、グラフの作成、グラフのレイアウトの変更、グラフに書式を設定、グラフのもとになるデータを修正		
14	図形やSmartArtグラフィックの作成 ワードアートの挿入	図形を作成、図形に書式を設定、SmartArtグラフィックを作成、SmartArtグラフィックに書式を設定、箇条書きテキストをSmartArtグラフィックに変換、名前を付けて保存、画像、アイコン、ワードアートを挿入		
15	特殊効果の設定 プレゼンテーションをサポートする機能	アニメーション、画面の切り替えの効果を設定、印刷レイアウト、スライドを効率的に切り替、スライドショーを実行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よくわかる Word 2021 基礎 (POM出版)		課題・レポート	100%	
よくわかる Excel 2021 基礎				
よくわかる Power Point 2021 基礎				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
論理学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
授業や課題レポート作成に必要な文章読解力、文章作成能力を養う				
授業終了時の到達目標				
・ 授業内の習熟や課題レポートに必要な文章力を身につける ・ 文章検3級レベルの能力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設、学校で培った学生に対する文章力指導経験を授業に活かす			
時間外に必要な学修				
学んだことを活かして、教科書の読解やレポート作成に臨むこと				
回	テ ー マ		内 容	
1	はじめに		学習方法	
2	文章作成 1		文章作成の基礎、体裁の整え方	
3	文章作成 2		文章作成の基礎、体裁の整え方	
4	文章作成 3		相手に伝わる文章を書く	
5	文章作成 4		考察を書く	
6	読解力 1		教科書の読みこみ方、索引の活用方法	
7	読解力 2		文章読解の基礎	
8	読解力 3		文章読解の基礎	
9	国家試験問題を解く 1		国家試験問題の読解方法	
10	国家試験問題を解く 2		国家試験問題を解くための調べ学習方法	
11	国家試験問題を解く 3		国家試験問題を解く＆解説づくり	
12	国家試験問題を解く 4		グループワーク	
13	国家試験問題を解く 5		グループワークと発表	
14	応用 1		観察と記録	
15	応用 2		観察と記録	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作文力アップ 伝わる文章を書く基本（ウイネット）、他配布資料		課題・レポート 小テスト	80% 20%	医学漢字の小テストを します

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	宮地 和樹
授業の概要				
人間の集団としての社会は個々人の集まりであるとともに、それ自体として政治・経済・法や道徳・教育・家族・宗教などさまざまなシステムをもち、相互依存しながら存在している。本授業はそれらの仕組みを明らかにしようとする社会学を学ぶことで、その仕組みを理解するとともに、現在の社会における課題に対し自身の意見を形成することを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
①社会学の基礎的な考え方が理解できる ②各授業でテーマとする社会現象についての基本用語を理解できる ③各授業でテーマとする社会問題に対して自分の意見を表現することができる				
時間外に必要な学修				
毎回の授業で映画の一部分を視聴するので、指定された映画の予告編を視聴してくること。コマシラバスに各授業の参考資料を記載しているので、授業をさらに理解したい人は一読を勧める				
回	テーマ	内 容		
1	社会と社会学	授業全体の概要、社会と社会学の定義・基本的用語の説明を行う。		
2	個人と社会①	個人と社会の関係を、社会学の古典的なテーマである自殺を例にして考える。		
3	個人と社会②	個人と社会の関係を、社会学の古典的なテーマである自殺を例にして考える。		
4	貧困と社会①	貧困と社会の関係を、発展途上国における児童労働をテーマにして考える。		
5	貧困と社会②	貧困と社会の関係を、発展途上国における児童労働をテーマにして考える。		
6	教育と社会①	教育と社会の関係を、教育格差をテーマにして考える。		
7	教育と社会②	教育と社会の関係を、教育格差をテーマにして考える。		
8	学校の社会①	学校における社会を、いじめをテーマにして考える。		
9	学校の社会②	学校における社会を、いじめをテーマにして考える。		
10	社会と家族・女性①	社会と家族の関係を、女性の地位や役割、その変遷をテーマにして考える。		
11	社会と家族・女性②	社会と家族の関係を、女性の地位や役割、その変遷をテーマにして考える。		
12	超高齢社会①	社会における超高齢社会を、日本における超高齢社会をテーマにして考える。		
13	超高齢社会②	社会における超高齢社会を、日本における超高齢社会をテーマにして考える。		
14	ソーシャルメディアと社会①	メディアと社会の関係を、SNSをテーマにして考える。		
15	ソーシャルメディアと社会②	メディアと社会の関係を、SNSをテーマにして考える。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書は使用しない。参考書等はコマシラバスに記載する。		各授業での課題・レポート 最終レポート	70% 30%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間工学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
・ 姿勢・動作のみかた、考え方を学ぶ ・ 立位・座位・立ち上がり動作・寝返り動作の観察の視点・記入の方法を学ぶ ・ 動作を理解するうえの基礎的力学原則を学ぶ ・ 健常者の動き・バリエーションを学ぶ ・ 人－作業－環境の相互作用を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
上記の授業概要について理解を深めること 特に ・ 健常者の動き・他者との違い・環境によって動きが変化することを理解し、 ・ 動きを観察・説明・記載ができることを求める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 人の動きや、人－作業－環境の相互作用についての経験を用いて授業を展開していく。		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで授業の振り返りを行うことと四則演算の復習を行う				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間工学とは		基本的な考え方・みかた 人－環境－作業の関係	
2	手とモノの関係		物品操作に必要な手の構え・把握パターンと身体の関係	
3	福祉用具		自助具とは、福祉用具とは、支援の流れ	
4	家屋内の環境		住環境整備	
5	家屋外の環境		外出における環境と問題	
6	姿勢と環境		姿勢とは、姿勢の分類、みかた	
7	座位と環境		座位の特徴、差尺と環境	
8	起立・着座と環境		起立・着座動作	
9	車いすと環境		車いすの名称と種類、車いすの操作方法	
10	ベッドと環境		ベッドの操作、ベッド上の動作・移乗、マットレス	
11	基本動作のみかた 1		寝返り動作、起き上がり動作	
12	基本動作のみかた 2		寝返り動作、起き上がり動作	
13	基本動作の介助法		介助の考え方	
14	移動と環境		移動補助具、杖の調整と使用方法	
15	安全と人間工学		ハインリッヒの法則、事故を防ぐには	
教科書・教材			評価基準	評価率
参考文献：・イラストで学ぶ看護人間工学（東京電機大学出版） ほか			期末試験	100%
				実技も含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
コミュニケーション論演習Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美	
授 業 の 概 要					
臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。					
授業終了時の到達目標					
・ 基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる ・ 問題解決に向けた行動ができる医療人になる					
実務経験有無		実務経験内容			
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士の経験を活かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修					
社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る					
回	テ ー マ		内 容		
1	オリエンテーション		コミュニケーションとは		
2	ケア・コミュニケーションについて		医療におけるコミュニケーション		
3	自己分析		自己概念、自己肯定感		
4	みる		観察から読みとれる非言語情報、相手に与える印象		
5	きく		傾聴、聴き手のコツ		
6	伝える		アサーティブネス、伝わるコツ		
7	被援助者との関係を築く		好感・信頼感を高めるコミュニケーション 敬意を伝えるコミュニケーション7		
8	被援助者との関係を築く		丁寧語・尊敬語・謙譲語		
9	地域の方とのコミュニケーション		地域の方との交流 企画・運営		
10	地域の方とのコミュニケーション		地域の方との交流 企画・運営		
11	2年生との合同授業		2年生との交流		
12	2年生との合同授業		2年生との交流		
13	2年生との合同授業		2年生との交流		
14	2年生との合同授業		2年生との交流		
15	まとめ		社会人・医療人として必要なこととは何か		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・PTOTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版（医学書院） ・ケア・コミュニケーション（ウイネット）			課題・レポート	100%	到達目標を考えた行動をとる

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション論演習Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
チーム医療における患者・家族や医療者間のコミュニケーションは、作業療法の治療効果や生活支援において欠かせないものである。また、臨床実習においても、社会人の基礎として指導者や患者とのコミュニケーションが必要である。授業ではコミュニケーションを実践的な技術として身に付けることができるよう、様々な体験を通して経験にしていく。				
授業終了時の到達目標				
・各テーマにおけるコミュニケーションで、傾聴、共感し、自分の言葉で表現することができる。 ・言葉づかいや挨拶をしっかり行い、アクティブに取り組むことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法経験を活かし、学生の指導を行う。		
時間外に必要な学修				
・日常の生活場面から積極的にコミュニケーションをとり、自分の気持ちを表現しましょう。 ・今後の実習も意識して、挨拶を進んで行いましょう。				
回	テ ィ マ		内 容	
1	オリエンテーション 振り返り		コミュニケーションについて アイスブレイク、「伝える力」をみがく	
2	ディベート		事例検討	
3	ABDを活用したグループワーク 1		テーマに沿った文章をもとに、仲間との対話で深い気付きを得よう	
4	ABDを活用したグループワーク 2		発表準備	
5	ABDを活用したグループワーク 3		発表して全員で内容を共有しよう	
6	認知ソーシャルトレーニング 1		認知ソーシャルトレーニングを通してコミュニケーションを考える	
7	認知ソーシャルトレーニング 2		認知ソーシャルトレーニングの課題を作成しよう	
8	認知ソーシャルトレーニング 3		作成した内容を発表しよう	
9	1年生との合同授業		1年生との交流	
10	1年生との合同授業		1年生との交流	
11	認知作業トレーニング		認知作業トレーニングの体験、指導練習を通じたコミュニケーション	
12	ICT機器を活用したコミュニケーション 1		最新のICT機器に触れながら体験しよう	
13	ICT機器を活用したコミュニケーション 2		最新のICT機器に触れながら体験しよう	
14	当事者とのコミュニケーション 1		コミュニケーションの実践を通して生活背景を知る 一人のひとを深く知ろう	
15	当事者とのコミュニケーション 2		コミュニケーションの実践を通して生活背景を知る 一人のひとを深く知ろう	
教科書・教材			評価基準	評価率
・配布資料			課題・レポート	100.0%
				その他
				各ワークごとに、リフレクションしていきます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康科学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようになる。				
授業終了時の到達目標				
健康とは何か、健康を阻害するものについて説明することができる。 健康体操を他者に指導することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や高齢者施設での経験を活かして学生に分かりやすく指導する。			
時間外に必要な学修				
授業中に学んだ専門用語ついて、自身で関係書籍を活用して理解を深める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 健康とは		授業概要の説明 健康とは	
2	身体構造と身体機能 健康診断		循環器系、呼吸器系、消化器系ほか 健康診断の意義と各検査・測定項目	
3	心の健康		精神的健康とは、心の不健康（うつ病、摂食障害、統合失調症など）	
4	遺伝と健康 適応と健康		遺伝の仕組み、遺伝性疾患、肥満・高血圧と遺伝との関係 自律神経系の作用、寒冷や暑熱および高地での適応	
5	環境と健康		温熱や騒音、振動などの環境と健康 COVID-19などの感染症と健康	
6	栄養と健康		五大栄養素の機能 栄養・健康に関する社会的諸問題	
7	運動と健康		運動の効果、トレーニング法と運動処方の実際 運動による障害	
8	生活習慣と健康		生活習慣病、食生活と健康、身体活動と健康、喫煙と健康 アルコールと健康、睡眠と健康	
9	社会と健康 1		健康に生きる権利、公衆衛生対策と健康 医療制度	
10	社会と健康 2		集団と健康、学校と健康、職場と健康	
11	社会と健康 3		経済と健康、法律と健康	
12	科学技術と健康 1		化学物質と健康 情報技術（IT）と健康	
13	科学技術と健康 2		交通機関と健康、自動車事故、自動車運転と健康障害	
14	科学技術と健康 3		住宅と健康	
15	健康体操の紹介と実践 まとめ		健康体操の紹介と実践 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		期末試験	100%	分からないことは積極的に質問すること

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
英語		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	Jack Amano
授業の概要				
医学英語・リハビリテーション基礎英語を勉強し、練習する				
授業終了時の到達目標				
医学英語・リハビリテーション基礎英語が理解、使用できる				
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通して予習をしておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	Introductions, English Rhythm & Basic Accent Patterns	A. 基本発音練習（L, R） B. リハビリテーション英語： 領域・専門家		
2	Rehabilitation Sites	A. 基本発音練習（L, R） B. リハビリテーションの現場		
3	Fundamentals of the Human Body	A. 基本発音練習（F, V, B, P） B. 人体の基礎知識		
4	Body Structure: Skeletal System	A. 基本発音練習（S, SH, TH） B. 人体の構造： 骨格系		
5	Body Structure: Vertebral Column, Bones & Joints	A. 基本発音練習（A, E, O） B. 人体の構造： 脊柱・骨・関節		
6	Body Structure: Muscular System	A. 基本発音練習（EA／EE, I, O, U） B. 人体の構造： 筋肉系		
7	Body Structure: Nervous System	A. 基本発音練習（AR, ER, IR, OR, UR） B. 人体の構造： 神経系		
8	Body Structure: Nervous Subsystems	A. 基本発音練習（A, AN, THE） B. 人体の構造： 神経系, サブ系と様々な働き		
9	Bone Fractures: Classification & Treatment	骨折 ・ 分類と治療 ・ 大腿骨頸部骨折の運動療法		
10	Chronic Back Pain	慢性腰痛 ・ 腰痛の運動療法		
11	Arthritis	関節炎 ・ 変形性膝関節症の運動療法 ・ 関節リウマチの運動療法		
12	Sports Injury	スポーツ傷害 ・ スポーツ外傷・傷害療法		
13	Parkinson's Disease	パーキンソン病 ・ 脳卒中 ・ 片麻痺の患者の日常動作		
14	Dysphagia & Translation Exercise 1	嚥下障害・英文の和訳実習①		
15	Chronic Obstructive Pulmonary Disease & Translation Exercise 2	慢性閉塞性肺疾患・英文の和訳実習②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーションの基礎英語（MEDICAL VIEW） 配布資料		期末試験	100%	

人体の構造と機能及び 心身の発達

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
上肢解剖運動学Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に骨や筋、神経の総論と運動学に必要な知識を学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては正常な人体の構造と概論について学習し、その働きを理解する。また作業療法士として必要な上肢の骨や筋肉の名称を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨牀的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	解剖学、運動学とは 人体の概要		解剖学、運動学の定義などを学習して、どのような内容を学ぶか理解する。	
2	細胞と発生		細胞の構造と機能について学習し、人体の発生について理解を深める。	
3	骨格系の総論		骨の形態や構造、機能について学習する。	
4	骨の形状や名称について		人体の骨の名称や形状についてスケッチなどを行い学習する。	
5	筋の総論		筋組織の構造や機能について学習する。	
6	関節の機能と分類について		関節の基本構造と機能について理解する。関節の種類を軸とその働きから分類し、特徴について理解する。	
7	関節の運動方向		関節の運動方向について理解し、実技を行いながら方向を確認する。	
8	神経の総論		神経系の総論について学習し、上肢の神経や自律神経についても理解する。	
9	血管の総論		血管系の総論について学習し、上肢の血管やリンパ系について理解する。	
10	中枢神経系について①		大脳、小脳、脊髄などの機能的解剖について理解する。	
11	中枢神経系について②		脳神経や大脳皮質の機能局在、伝導路について理解する。	
12	感覚器について		皮膚の構造や視覚器、平衡感覚器、嗅覚期など感覚器の器官の名称と働きについて理解する。	
13	頭部 頸部の解剖と運動		頭部、頸部の解剖学と運動学について理解する。	
14	脊柱、胸郭の解剖と運動		脊柱、胸郭の解剖学と運動学について理解する。	
15	上肢解剖運動学Ⅰのまとめ		上肢解剖運動学Ⅰのまとめを行う。	
教科書・教材		評価基準		評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験		100%
				その他 予習、復習をして授業を受ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
上肢解剖運動学Ⅱ		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に上肢の関節や運動学について講義をしていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては上肢の関節の構造や筋肉の起始停止などを理解する。また作業療法士として必要な上肢の関節の働きや、筋の作用を理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨床的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	肩関節① 構造と胸鎖関節、肩鎖関節について		肩を構成する骨と関節と理解する。胸鎖関節、肩鎖関節の解剖と運動学について理解する。	
2	肩関節② 肩甲胸郭関節について		肩甲胸郭関節の解剖と肩甲骨の動きについて理解する。	
3	肩関節③ 肩甲上腕関節について		肩甲上腕関節の解剖と運動学について理解する。	
4	肩関節④ 肩の運動について（屈曲・伸展）		肩の動きである屈曲、伸展に作用する筋肉と運動学について理解する。	
5	肩関節⑤ 肩の運動について（外転など）		肩の外転、内転、外旋、内旋などに作用する筋肉と運動学について理解する。	
6	肩関節⑥ 肩の安定化機能について		肩関節の安定化について理解する。	
7	肩関節⑦ 上肢の神経や血管と肩の障害		上肢の血管や腕神経叢などの神経について理解する。 肩に関わる疾患について理解する。	
8	肘関節① 肘関節の解剖		肘関節を構成する骨と関節の分類について理解する。	
9	肘関節② 肘の動きに作用する筋について		肘関節の動きに作用する筋肉について理解する。	
10	肘関節③ 肘関節の運動学		肘関節に関わる運動学的な機能について理解する。	
11	手関節① 手関節の解剖		手関節に関わる解剖について理解する。	
12	手関節② 手関節の運動学		手関節に関わる運動学的な機能について理解する。	
13	手指 手指の解剖と運動学		手指に関わる解剖や運動学的な機能について理解する。	
14	上肢の筋の復習		上肢の筋肉の起始、停止、神経支配、作用について復習する。	
15	上肢解剖運動学Ⅱのまとめ		上肢解剖運動学Ⅱのまとめを行う。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受けていく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
下肢体幹解剖運動学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
人体の正常な構造を理解するために解剖学的な知識を学んでいく。人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深めていく。特に下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについても解剖学的視点と運動学視点を踏まえて講義を行っていく。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては下肢の骨や筋肉の作用、関節の分類や運動方向を理解する。特に作業療法士として必要な下肢の解剖と運動学を学び、姿勢や歩行について理解することで臨床場面で必要となる知識を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、解剖学と運動学を臨牀的観点から結びつける。			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	骨盤の解剖と運動学	骨盤の構造と運動について理解する。		
2	股関節① 股関節の解剖	股関節を構成する骨について理解する。		
3	股関節② 股関節の動きに作用する筋肉	股関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。		
4	股関節③ 股関節の運動学	股関節の運動学について理解する。		
5	股関節④ 股関節の疾患と下肢の神経、血管	股関節に関わる疾患と下肢の神経や血管の走行を理解する。		
6	膝関節① 膝関節の解剖	膝関節の解剖について理解する。		
7	膝関節② 膝関節の動きと作用する筋肉	膝関節の運動方向と作用する筋肉について理解する。		
8	膝関節③ 膝関節の運動学	膝関節の運動学について理解する。		
9	足関節① 足関節の解剖	足関節の解剖について理解する。		
10	足関節② 足関節の運動学	足関節の運動学について理解する。		
11	姿勢と重心①	人体と重心の関りをバイオメカニクスの観点から理解する。		
12	姿勢と重心②	重心と体の動きから寝返り、起居動作、立ち上がりなどの基本動作について理解する。		
13	歩行①	歩行の基礎について運動学的に理解する。		
14	歩行②と下肢解剖運動学のまとめ	歩行の様態や異常歩行について理解する。		
15	下肢の筋の復習と下肢体幹解剖運動学のまとめ	下肢の筋の起始、停止、支配神経、作用について復習する。下肢体幹解剖運動学のまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）ほか		期末試験	100%	予習、復習をして授業を受けていく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学演習		作業療法学科／1年	2024／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
解剖学での知識に触診という技術をあわせ体表面上から身体を観察する力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・ 触診の基本がわかる。 ・ 四肢・体幹を構成する骨・靱帯・筋・血管を触診に特定でき、説明できるようにする。 ・ 各部位の異常に関連した障害、疾患名、診察法を挙げることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験 これまでの作業療法の経験を用いて、実際の触診を学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
触診の技術向上筋・神経を覚えることと、次回の予習を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	体表面解剖学総論 触診の基本		触診の基礎知識となる人体の動きを医学的表現で理解する。触診を行う際の指の当て方、触診時の注意点	
2	骨・関節の触診 肩甲骨・鎖骨・上腕骨		肩甲骨・鎖骨・上腕骨の部分名称、触察	
3	橈骨・尺骨の触診 手根骨について		橈骨・尺骨・手根骨の部分名称、触察	
4	上肢帯における骨触診のまとめ 肩甲上腕関節に関する筋の触診		今までに習った上肢帯での骨触診のおさらい 肩関節内外旋に関わる筋の触察	
5	肩甲上腕間接に関する筋 肩甲胸郭関節に関わる筋		肩甲骨周囲の筋の触察	
6	手関節および手指に関わる筋 肘関節に関わる筋		手関節の運動に関わる筋の触察 肘関節屈曲並びに伸展に関わる筋の触察	
7	手関節および手指に関わる筋②		手指の運動に関わる筋の触察 手内在筋の触察	
8	骨・関節の触診 骨盤・大腿骨・膝関節周辺		骨盤を形成する骨の部分名称・触察 膝蓋骨の触察	
9	骨・関節の触診 足関節および足部周辺		下腿及び側部の骨の部分名称・触察	
10	下肢の靱帯		スカルパ三角関連 膝関節関連 足関節関連	
11	股関節に関わる筋		股関節の運動に関わる筋の触察	
12	膝関節に関わる筋		膝関節の運動に関わる筋の触察	
13	足関節に関わる筋		足関節の運動に関わる筋の触察	
14	体幹―胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織		体幹、脊柱の骨の部分名称・運動に関わる筋の触察	
15	体幹―胸郭・脊柱関連 胸郭に関連する諸組織		頸部、背部、腰部の筋の触察	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢および下肢・体幹 参考図書：ネッター解剖学カラーリングテキスト		期末試験	100%	授業は実技形式で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内臓学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能の理解を深めるとともに、その異常が生じた際にどのような症状が生じるか、さらには日々の生活にどのような影響が生じるであろうか予測できる基礎的知識とする。				
授業終了時の到達目標				
・ 消化器系や循環器系等の臓器について、その位置と構造および機能について他者に説明できる。 ・ 国家試験過去問題の正答率6割以上。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
指定テキスト及び配布資料を読んで予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	内臓学オリエンテーション 消化器系の構造と機能 1		内臓学で何を学ぶのか、成績評価、作業療法における内科学を学ぶことの重要性、食道と胃の構造と生理	
2	消化器系の構造と機能 2		十二指腸・小腸・大腸の構造と生理 肝臓・膵臓・胆のうの構造と生理	
3	消化器系のまとめと国家試験対策		前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
4	呼吸器系の構造と機能 1		咽頭と喉頭の構造と機能 気管支の構造と機能	
5	呼吸器系の構造と機能 2		肺の構造と機能	
6	呼吸器系のまとめと国家試験対策		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
7	泌尿器系の構造と機能 1		腎臓の構造と機能	
8	泌尿器系の構造と機能 2		尿管、膀胱、尿道の構造と尿の生成	
9	泌尿器系のまとめと国家試験対策		前2回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
10	生殖器と内分泌系の構造と機能		男性生殖器・女性生殖器の構造と機能 内分泌器官の構造と機能	
11	生殖器と内分泌系のまとめと国家試験対策		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
12	循環器系の構造と機能 1		心臓の構造と機能	
13	循環器系の構造と機能 2		血管の構造と機能 血液の再生と赤血球の構造と機能	
14	循環器系の構造と機能 3		リンパ管の構造と機能 リンパ球の構造と機能	
15	循環器疾患のまとめと国家試験対策		前回で学んだ内容を国家試験過去問題を解いて知識の整理を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・からだが見える（メディックメディア）		期末試験	100%	授業中、1度は発言する機会を持つ

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学実習		作業療法学科／1年	2024／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。				
授業終了時の到達目標				
・ 人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。 ・ 人体の立体的構造を立体視できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床経験を活かして、臨床との関連性を伝えながら指導する。		
時間外に必要な学修				
教科書を授業前に確認しておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		心構えと授業の進め方	
2	立体視トレーニング		上肢・下肢筋の配置や相互の位置関係	
3	立体視トレーニング		上肢・下肢筋の配置や相互の位置関係	
4	立体視トレーニング		内臓の構造と位置関係	
5	グループ成果発表 1		関節面の形態と靱帯の課題	
6	グループ成果発表 2		筋の構造と収縮連関の課題	
7	グループ成果発表 3		神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題	
8	グループ成果発表 4		上肢帯の神経と血管の走行の課題	
9	グループ成果発表 5		下肢帯の神経と血管の走行の課題	
10	グループ成果発表 6		呼吸器系の課題	
11	グループ成果発表 7		循環系の課題	
12	グループ成果発表 8		消化器系の課題	
13	チーム作業		各疾患をグループで準備	
14	グループ成果発表 9		肩関節脱臼・上腕二頭筋長頭腱炎・腱板断裂	
15	グループ成果発表 10		肝硬変・腎不全・心臓弁膜所	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（医学書院）ほか		習熟度試験 グループ成果発表	50% 50%	自主性重視の授業

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動生理学Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
神経機能、運動、感覚、内分泌による調節などの高次の生命活動について、個々の役割と機能を理解しそれらが相互に協調して働いていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	生理学とは		授業内容の説明 生命のメカニズム、人体機能の基礎を学ぶ	
2	神経 Ⅰ. 神経系機能一般		神経系の分類、神経系の構造、神経機能一般	
3	神経 Ⅱ. 中枢神経系		中枢神経系の概要、分類、機能 脊髄の機能、形態、伝導路	
4	神経 Ⅱ. 中枢神経系		間脳ならびに脳幹の機能	
5	神経 Ⅱ. 中枢神経系		大脳ならびに小脳の機能、その他	
6	神経 Ⅲ. 末梢神経系 Ⅳ. 自律神経系		脳神経と脊髄神経 自律神経の分類	
7	神経 Ⅳ. 自律神経系		自律神経性調節の特徴 自律機能の調節	
8	筋 Ⅰ. 骨格筋		骨格筋の構造、骨格筋の微細構造、収縮の仕組み	
9	筋 Ⅰ. 骨格筋		筋収縮のタイプ、筋収縮の力学、骨格筋のエネルギー代謝	
10	筋 Ⅰ. 骨格筋 Ⅱ. 心筋と平滑筋		筋疲労、骨格筋線維のタイプ 心筋、平滑筋	
11	運動 Ⅰ. 骨格筋の神経支配		運動単位とα運動ニューロン、神経―筋伝達、骨格筋の感覚受容器、筋紡錘とγ運動ニューロン	
12	運動 Ⅱ. 脊髄レベルでの運動調節		伸張反射、拮抗抑制、I b 抑制、脊髄レベルの各反射について	
13	運動 Ⅲ. 脳幹、小脳による運動調節		姿勢反射、脳神経が関与するその他の反射	
14	運動 Ⅳ. 大脳皮質、大脳基底核による調節		一次運動野、運動前野、補足運動野 錐体路系と錐体外路系	
15	まとめ		運動生理学Ⅰのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic テーションテキスト 生理学 (メジカルビュー社) ほか		リハビリ 第1版生理 学	期末試験	100% 復習し理解すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動生理学Ⅱ		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
感覚、血液と体液、循環、呼吸などの個々の機能と役割を理解し、 運動生理学Ⅰで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	感覚 Ⅰ. 感覚総論		感覚受容器と適刺激、感覚の神経経路、刺激と感覚	
2	感覚 Ⅱ. 体性感覚		触圧覚、温度感覚、体の位置や動きの感覚、痛覚	
3	感覚 Ⅲ. 内臓感覚 Ⅳ. 特殊感覚		臓器感覚、内臓痛覚 視覚	
4	感覚 Ⅳ. 特殊感覚		聴覚、平衡感覚、味覚と嗅覚	
5	血液 Ⅰ. 血液の組成と一般的性質・機能		血液の組成、機能、一般的（物理的）性質	
6	血液 Ⅱ. 血球		赤血球、白血球、血小板	
7	血液 Ⅲ. その他		止血と血液凝固、血液型、	
8	循環 Ⅰ. 循環経路 Ⅱ. 心臓の機能		体循環と肺循環 心臓の特性、心電図	
9	循環 Ⅲ. 血管		血管の動き、血液速度と脈拍、血圧	
10	循環 Ⅳ. 循環の調節		局所性循環調節、ホルモン性循環調節、神経性循環調節	
11	循環 Ⅳ. 循環の調節		心拍出量の調節、静脈還流量の調節、リンパ循環、その他	
12	呼吸		外呼吸と内呼吸 呼吸器と呼吸運動	
13	呼吸		肺の換気機能 呼吸器の異常による換気障害	
14	呼吸		ガス交換 血液による酸素・二酸化炭素の運搬	
15	まとめ		運動生理学Ⅱのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic テーションテキスト 生理学 学(メジカルビュー社) ほか		期末試験	100%	復習し理解すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動生理学Ⅲ		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
内分泌、消化吸収、代謝、排泄などの個々の機能と役割を理解し、 運動生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ機能と共に、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	内分泌 ホルモンの種類と作用一般		ホルモンの種類、作用様式、分泌の調整	
2	内分泌 各内分泌器官とそのホルモン作用		視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺	
3	内分泌 各内分泌器官とそのホルモン作用		副腎皮質、副腎髄質、膵臓、精巣、卵巣、その他	
4	生殖・成長と老化①		生殖器の働き、妊娠、成長と老化	
5	生殖・成長と老化②		生殖器の働き、妊娠、成長と老化	
6	消化・吸収 口腔と食道、胃における消化		口腔、食道、胃における運動、唾液・胃液の性状と生理作用並びに分泌機序など	
7	消化・吸収 小腸における消化と吸収		小腸の運動と腸内容の移送、膵液、胆汁、小腸における吸収	
8	大腸における消化と吸収 肝臓の機能		大腸の運動、大腸における吸収、腸内細菌の作用	
9	栄養と代謝		糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
10	栄養素と代謝		糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、エネルギー代謝	
11	体温①		産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常、暑さ寒さへの適応	
12	体温②		産熱と放熱、体温調節、体温の変動、体温異常、暑さ寒さへの適応	
13	排泄機能の生理①		腎臓と尿産生、排尿の機構、体液	
14	排泄機能の生理②		腎臓と尿産生、排尿の機構、体液	
15	まとめ		運動生理学Ⅲのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学（メジカルビュー社）ほか		期末試験	100%	復習し理解すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動生理学演習		作業療法学科／1年	2024／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち生命維持に不可欠な、基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
運動生理学Ⅰ～Ⅲで学んだことを演習にて経験し、生命現象は各機能が協調して維持されていることを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。		
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	運動生理学演習とは		授業概要の説明 グループワークについて	
2	呼吸①		%肺活量や1秒率などの測定	
3	呼吸②		%肺活量や1秒率などの測定	
4	血圧①		血圧の意味、異常、測定原理など	
5	血圧②		血圧の意味、異常、測定原理など	
6	反射①		運動調節とそれぞれの反射について	
7	反射②		運動調節とそれぞれの反射について	
8	体温調節①		体温調節と生理的な体温の変動について	
9	体温調節②		体温調節と生理的な体温の変動について	
10	筋収縮様式		筋収縮のタイプについて、筋疲労など	
11	グループワーク ①計画		グループで研究テーマの計画を作成	
12	グループワーク ②検証		計画に沿って内容を実験、検証する	
13	グループワーク ③資料作成		検証結果をまとめ、発表準備を行う	
14	グループワーク ④発表		各グループでの発表	
15	まとめ		運動生理学演習のまとめ 本試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：Crosslink basic リハビリ テーションテキスト 生理学 第1版生理 学（メジカルビュー社） ほか		レポート課題	100%	グループワークを 含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
発達的一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発達に関係する因子と理論を理解する。 ・ 情緒の発達、社会性の発達、運動の発達等を家族関係、母子相互作用の視点から理解する。 ・ 小児期から老年期までの身体的・心理的発達の特徴と変化を関連付けて説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、実例を挙げながら伝える。			
時間外に必要な学修				
・ 事前に教科書で予習し、配布資料をもとに教科書と照らし合わせながら復習しましょう。 ・ これまでと今後の人生を考えながら、ライフステージの各段階における特徴を学びましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション、発達概念		本講義について 発達の区分、定義、成長曲線、発達の原則、発育曲線	
2	発達理論		エリクソン・ピアジェの発達理論	
3	胎生期から新生児期の発達		胎生期、新生児期の身体・認知の発達について	
4	乳児期の発達		乳児期の身体・認知・社会性の発達について	
5	幼児期から学童期の発達		幼児期前期・後期、学童期の身体・認知・社会性の発達について	
6	遊びの発達		児にとっての遊びについて	
7	青年期から老年期の発達		青年期、成人期、老年期の身体・認知・社会性の発達について	
8	上肢機能の発達		リーチ、握りとつまみ、操作、リリース、目と手の協調性の発達	
9	ADLの発達		食事、排泄、更衣など日常生活動作獲得に至るまでの発達	
10	姿勢反射／反応 1		原始反射、姿勢反射／反応について 脊髄レベル	
11	姿勢反射／反応 2		脳幹レベル	
12	姿勢反射／反応 3		中脳レベル、大脳皮質レベル	
13	運動発達 1		新生児期、乳児期の腹臥位・背臥位	
14	運動発達 2		新生児期、乳児期の座位、立位	
15	発達検査について		発達検査とは？遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、日本版デンバー式発達スクリーニング検査	
教科書・教材		評価基準		評価率
イラストでわかる 人間発達学 （医歯薬出版）		期末試験		100.0%
				その他
				自身の生涯と関連付けよう。

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
病理学とは何か？人類の歴史で疾患の変遷を理解する。主な疾患の病因を理解する。				
授業終了時の到達目標				
疾患の病因に関して外因と内因について説明できる。 臓器毎に主な疾患の病因を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の勤務経験。 これまでの作業療法の経験を用いて、学生に指導する。			
時間外に必要な学修				
テキストを読み、授業で学んだ内容の復習を行い理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	組織細胞の修復と再生		壊死とアポトーシス、再生、創傷治癒、肉芽組織、骨折、異物処理	
2	循環障害		うっ血、充血、虚血、梗塞（血栓、塞栓）、出血、壊死、ショック	
3	炎症、感染症、免疫機構		炎症とはなにか、感染の成立、感染防御機構、免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患	
4	腫瘍		発癌機序、良性と悪性の鑑別、腫瘍発生の要因、転移（血行性、リンパ行性、播種）、癌の疫学	
5	遺伝と先天異常		遺伝病、染色体異常症、単一遺伝子病、遺伝子診断、先天異常の病因	
6	代謝異常		糖尿病（Ⅰ型、Ⅱ型）、高脂血症、痛風、黄疸、アミロイドーシス、糖原病	
7	循環器と呼吸器の疾患		虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、肺癌、肺炎、間質性肺炎、結核、気管支喘息	
8	消化器の疾患		食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎、ウイルス肝炎、肝癌、肝硬変、膵癌、胆石症	
9	内分泌系の疾患		下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、橋本病、甲状腺癌、クッシング病、アジソン病、	
10	造血期の疾患		貧血の分類、白血病の分類、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病	
11	泌尿器・生殖器の疾患		急性糸球体腎炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳癌	
12	運動器、皮膚の疾患		骨折、関節リウマチ、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、軟部腫瘍、皮膚の感染症、皮膚腫瘍	
13	脳・神経系の疾患		脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病、脱髄疾患、感染症	
14	炎症の経時的変化について		組織や細胞の壊死、充血	
15	感染症について		感染症 ウイルス 細菌	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(医学書院)		期末試験	100%	テキストをよく読み内容を理解すること

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	福田 琴
授業の概要				
- 臨床心理分野の疾患の理解。 - 各疾患の治療法を学ぶ。 - 自分たちの職種が出来る範囲のを知る。				
授業終了時の到達目標				
- 臨床心理分野の疾患を理解する。 - 各疾患の治療法を理解する。 - 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1（不安障害）	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2（身体表現性障害）	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3（解離性障害） 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC（回避性パーソナリティ障害など）		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん、睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学（医学書院）		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、救命救急医療をはじめ、外科など代表的な疾患の概要・症状・治療について習得する。				
授業終了時の到達目標				
救命救急医療について理解すると共に命の尊さを学ぶ。 授業で紹介する代表的な疾患の理解を深め、解剖運動学や運動生理学など基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 救命救急医療について		授業概要の説明⇒一般臨床医学は何を学ぶのか、成績評価 心肺蘇生法⇒一次救命処置	
2	ショックについて		ショックについて 一般症状、種類、治療	
3	救命救急処置の演習		救命救急処置（一次救命処置）の演習	
4	外傷とその主な処置法		外傷とその主な処置法や生命に関わる疾患	
5	外科総論 1		機械的損傷	
6	外科総論 2		非機械的損傷について	
7	感染性疾患と末梢血行障害について		感染成立のための3因子、病原微生物の種類 感染症の種類、代表的な感染症疾患、末梢血行障害	
8	腫瘍と臓器移植および免疫について		腫瘍：良性腫瘍と悪性腫瘍 臓器移植、免疫について	
9	免疫について		免疫：体液性免疫、細胞性免疫 抗原抗体反応（アレルギー）	
10	皮膚疾患について 1		皮膚の構造、皮疹の特徴 湿疹・皮膚炎、皮膚薬について	
11	皮膚疾患について 2		代表的な皮膚疾患の症状とその原因および治療法 皮膚感染症、動物寄生虫による疾患、物理的皮膚障害	
12	性感染症について		性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、梅毒、淋菌感染症の症状と治療法	
13	受精・出産に関する知識の習得		受精と出産	
14	耳鼻咽喉科疾患		代表的な耳鼻咽喉科疾患における症状や治療法	
15	眼科疾患について		白内障やぶどう膜炎など眼科疾患の診断・症状・治療法	
教科書・教材			評価基準	評価率
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 内科学（メジカルビュー社） プリント配布			期末試験	100%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学Ⅱ		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
一般臨床医学Ⅱでは、栄養知識が作業療法を展開する上でとても重要である。また、薬物に関する知識も同様で、薬物の効用はもちろんのこと、副作用などについても触れ、作業療法業務に活かす。				
授業終了時の到達目標				
主たる病態や疾患に対する栄養指導と薬物療法の基礎知識を習得し、他者に説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や介護保険施設での経験を活かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 作業療法における栄養学の重要性		一般臨床医学Ⅱで何を学ぶのか、成績評価 作業療法における栄養学を学ぶことの重要性	
2	消化器のしくみ		口腔・咽頭・食道、胃、小腸、膵臓、大腸のしくみ 消化と吸収	
3	三大栄養素		糖質、タンパク質、脂質	
4	ビタミンのはたらき		ビタミンの発見、ビタミンA・B・C・Dなどのはたらき	
5	ミネラルのはたらき その他の栄養素		ナトリウム、カリウム、カルシウムなどのはたらき 食物繊維、ポリフェノールなどのはたらき	
6	栄養素と遺伝子 病気と栄養 1		ニュートリゲノミクス、アルコール メタボリックシンドローム、虚血性心疾患と栄養など	
7	病気と栄養 2 運動と栄養		痛風、肝硬変、腎臓病と栄養 運動時のエネルギーなど	
8	薬が作用する仕組み 自律神経		薬と受容体、血中濃度、投薬方法 交感神経作動薬・遮断薬、抗コリン薬 ほか	
9	アレルギー 血液		プロスタグランジン、ヒスタミン、セロトニン 抗凝固薬、輸血、ほか	
10	炎症 呼吸器		ステロイド薬、非ステロイド薬 気管支ぜんそく治療薬、去痰薬 ほか	
11	循環器		降圧薬、血管拡張薬、カルシウム拮抗薬 ほか	
12	消化器		胃液分泌の仕組み 消化性潰瘍治療薬、止痢薬 ほか	
13	代謝 内分泌		糖尿病、インスリン製剤、骨粗しょう症薬 甲状腺ホルモン薬、妊娠中の薬剤投与	
14	中枢神経系		パーキンソン病、抗不安薬 睡眠薬、抗精神病薬、抗てんかん薬 ほか	
15	抗菌薬 抗がん薬		細菌の種類、抗生物質、抗真菌薬 代謝拮抗薬、ホルモン薬 ほか	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
イラストでまなぶ薬理学（医学書院） よくわかる栄養学の基本としくみ（秀和システム）		期末試験		100% 授業の終わりに何を学んだか一人1つ発表する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
リハビリテーション（作業療法）に関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する				
授業終了時の到達目標				
・病態、検査、治療という疾患理解と、からだの構造と機能の関連を理解する ・解剖・生理・疾患から基礎的な知識を身につける				
実務経験有無	実務経験内容			
有	・作業療法士として5年以上の実務経験 ・回復期、維持期の医療施設や介護老人保健施設でのリハビリテーションを実践した経験を活かし学生に分かりやすく内部障害に対し説明する			
時間外に必要な学修				
・内臓学での資料を用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	内科学オリエンテーション 内科概論		内科学で何を学ぶのか、成績評価、作業療法における内科学を学ぶことの重要性、内科学の進歩ほか	
2	循環器疾患 1		構造と機能、主要な臨床症状、循環器疾患の検査	
3	循環器疾患 2		心不全、高血圧症、虚血性心疾患、不整脈ほか	
4	腎疾患、水電解質代謝		構造と機能、主要症状、腎疾患の検査	
5	腎臓・泌尿器疾患		慢性腎臓病、腎不全、糸球体の疾患ほか	
6	呼吸器疾患 1		構造と機能、主要症状、呼吸器疾患の検査	
7	呼吸器疾患 2		感染性呼吸器疾患、気道閉塞性疾患	
8	呼吸器疾患 3		腫瘍性肺疾患、胸膜の疾患、塵肺、アレルギー性肺疾患	
9	消化管疾患 1		構造と機能、主要症状、消化管疾患の検査	
10	消化管疾患 2		食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患	
11	肝・胆・膵疾患 1		構造と機能、主要症状、肝・胆・膵疾患の検査	
12	肝・胆・膵疾患 2		急性膵炎、慢性膵炎、肝硬変、肝腫瘍、胆石症、ほか	
13	代謝性疾患 1		肥満症、やせ、糖尿病、脂質異常症、ほか	
14	内分泌疾患		間脳関連疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、ほか	
15	血液疾患		赤血球性系の疾患、白血球系の疾患、リンパ網内系疾患	
教科書・教材		評価基準		評価率
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 内科学（メジカルビュー社）		期末試験		100.0%
				その他
				毎回の授業で学んだことを他者に説明する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科 I		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志/横倉 益弘
授 業 の 概 要				
整形外科に関する代表的な疾患の病態、治療を理解する				
授業終了時の到達目標				
整形外科に関する代表的な疾患の病態を各種検査から理解し、それに関連した保存療法やリハビリテーションに役立つことができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	・ 作業療法士、理学療法士として5年以上の実務経験 ・ 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
・ 予習：次のテーマについて指定テキストを読む ・ 復習：授業ポイント、国試問題を振り返る。				
回	テ ー マ		内 容	
1	診察・症候、検査		・ 診察の流れ ・ 単純 X 線検査 ・ C T ・ M R I	
2	体幹の疾患 1		・ 脊椎、脊髄疾患総論 ・ 脊椎損傷（脊椎圧迫骨折）	
3	体幹の疾患 2		・ 脊髄損傷	
4	体幹の疾患 3		・ 脊髄損傷	
5	体幹の疾患 4		・ 椎間板ヘルニア ・ 脊柱管狭窄症 ・ 脊椎分離症 ・ 脊椎分離すべり症	
6	体幹の疾患 5		・ 頸椎症性脊髄症、神経根症 ・ 後縦靱帯骨化症（OPLL） ・ 黄色靱帯骨化症	
7	体幹の疾患 6 脊椎関節炎、結晶誘発性関節炎		・ 脊椎側弯症 ・ 強直性脊椎炎 ・ 痛風 ・ 偽痛風 ・ 変形性脊椎症	
8	下肢の疾患 股関節 1		・ 股関節疾患総論 ・ 大腿骨骨頭壊死	
9	下肢の疾患 股関節 2		・ 大腿骨頭すべり症 ・ Perthes病 ・ 発育性股関節形成不全（DDH）	
10	下肢の疾患 股関節 3		・ 変形性股関節症	
11	下肢の疾患 膝関節 1		・ 膝関節疾患総論 ・ 膝半月板損傷（内・外側半月板損傷など）	
12	下肢の疾患 膝関節 2		・ 膝靱帯損傷（前十字靱帯損傷など）	
13	下肢の疾患 膝関節 3		・ 変形性膝関節症	
14	下肢の疾患 足関節		・ 足の疾患総論 ・ 足関節靱帯損傷 ・ アキレス腱断裂	
15	整形外科 I まとめ		・ 整形外科 I の内容と国試問題のまとめ	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
病気がみえるVol.11 運動器・整形外科（メディク・メディア）		期末試験		100% 解剖学の知識と関連づけよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		・ 作業療法士として5年以上の実務経験 ・ 病院での実務経験を交えながら授業を進める		
時間外に必要な学修				
授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	末梢神経損傷		・ 末梢神経損傷総論 ・ 腕神経叢損傷 ・ 胸郭出口症候群	
2	末梢神経損傷		・ 前腕の末梢神経麻痺 ・ 下肢末梢神経損傷	
3	外傷		・ 骨折総論 ・ 区画症候群	
4	外傷		・ 複合性局所疼痛症候群 ・ 鎖骨骨折 ・ 上腕骨骨折	
5	外傷		・ 前腕骨折 ・ 手の骨折	
6	外傷		・ 脱臼総論 ・ 肩関節脱臼 ・ 股関節脱臼	
7	外傷		・ スポーツ外傷	
8	リウマチ性疾患		・ 関節リウマチ	
9	リウマチ性疾患		・ 関節リウマチ	
10	代謝性骨疾患		・ 骨粗鬆症 ・ 骨軟化症	
11	肘の疾患総論		・ 肘の解剖及び正常画像 ・ 上腕骨外側/内側上顆炎の症状及び病態	
12	手の疾患総論		・ 腱鞘炎 ・ ばね指 ・ 槌指（マレット変形）	
13	国家試験問題		・ 国家試験問題を解く	
14	国家試験問題		・ 国家試験問題を解く	
15	整形外科Ⅱ まとめ		・ 整形外科Ⅱのまとめ ・ 定期試験の試験範囲について説明	
教科書・教材			評価基準	評価率 その他
病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科（メディク・メディア）			期末試験	100% 教科書中心とする

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
神経病学Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に神経内科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する。				
授業終了時の到達目標				
・神経系のはたらき、役割、機能について理解する。 ・各神経疾患の症状、治療法、予後について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院での臨床経験を活かし、各疾患の特徴を分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
・予習：基礎知識として解剖学、生理学を振り返っておきましょう。 ・復習：配付資料と教科書を照らし合わせて学習しましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	神経系の構造と機能		神経系の全体像、ニューロンとグリア細胞 自律神経系、脳の可塑性とリハビリテーション	
2	神経系の構造と神経症候 1		大脳皮質	
3	神経系の構造と神経症候 2		大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・脳幹・小脳	
4	脳動脈系の全体像		脳動脈系	
5	運動と感覚		運動の異常と調整 感覚の異常	
6	神経変性疾患 1 （Parkinson病）		神経変性疾患総論 Parkinson病の概要、4症状について	
7	神経変性疾患 2 （Parkinson病）		Parkinson病の治療薬、副作用	
8	神経変性疾患 3 （Parkinson症候群）		Parkinson症候群、進行性核上性麻痺 大脳皮質基底核変性症、Huntington病	
9	神経変性疾患 4 （脊髄小脳変性症 SCD）		脊髄小脳変性症の概要、分類	
10	神経変性疾患 4 （筋萎縮性側索硬化症 ALS）		筋萎縮性側索硬化症（ALS）の概要 陰性徴候	
11	脱髄性疾患 （多発性硬化症 MS）		脱髄疾患総論、多発性硬化症 視神経脊髄炎	
12	末梢神経障害 （Guillan-Barre症候群）		末梢神経疾患総論（概念、分類） Guillan-Barre症候群、Charcot-marie-Tooth病	
13	筋疾患 1		筋疾患総論、筋ジストロフィー	
14	筋疾患 2		ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺 多発性筋炎、皮膚筋炎	
15	まとめ		神経系の構造と各疾患について振り返り	
教科書・教材		評価基準		評価率
病気が見えるvol.7 脳・神経 （メディックメディア）		期末試験		100.0%
				その他
				解剖学の知識と関連づけよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
神経病学Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に脳神経外科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する。				
授業終了時の到達目標				
解剖学と生理学の知識に基づき、各疾患の病態(生じる仕組み)を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院での臨床経験を活かし、各疾患の特徴を分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
・ 予習：基礎知識として解剖学、生理学を振り返っておきましょう。 ・ 復習：配付資料と教科書を照らし合わせて学習しましょう。				
回	テ ー マ	内 容		
1	中枢神経系解剖生理学 脳血管障害総論	脳の機能局在と伝導路、脳動脈の走行と灌流域 脳血管障害の概要と分類		
2	脳梗塞 1	アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症		
3	脳梗塞 2	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作、Wallenberg症候群、小脳梗塞、頸動脈狭窄症		
4	脳梗塞 3	脳梗塞の画像診断 急性期治療		
5	脳内出血	被殻出血、視床出血、脳幹出血、小脳出血、皮質下出血		
6	脳動脈瘤とくも膜下出血	脳動脈瘤の形成、好発部位、分類、画像所見、くも膜下出血の症状・経過・治療		
7	脳神経とその障害 1	脳神経の解剖と生理、脳神経障害		
8	脳神経とその障害 2	脳神経の解剖と生理、脳神経障害（Ⅰ～Ⅳ，Ⅵ）		
9	脳神経とその障害 3	脳神経の解剖と生理、脳神経障害（Ⅴ，Ⅶ～Ⅻ）		
10	脊髄とその障害	脊髄梗塞、脊髄動静脈奇形、脊髄空洞症		
11	末梢神経とその障害	末梢神経の解剖生理、絞扼・圧迫性ニューロパチー		
12	先天奇形	二分脊椎、Chiari奇形、頭蓋縫合早期癒合症		
13	脳腫瘍	脳腫瘍とは？ 神経膠腫、髄芽腫		
14	頭部外傷	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳内血腫、脳挫傷、慢性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷		
15	まとめ	要点の再確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気が見えるvol.7 脳・神経 （メディックメディア）アプリ版		期末試験	100%	解剖学の知識と関連づけよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
精神医学の基礎について学び、作業療法業務に役立てる。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立てる。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明することができる。 定期試験6割以上の正答。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要の説明 精神医学とは		授業概要の説明、精神医学とは、精神障害にかかわる概念、精神障害の分類、理学療法との関連事項	
2	認知症 1		アルツハイマー病の病態、診断、治療 レビー小体型認知症の病態、診断、治療	
3	認知症 2		前頭側頭型認知症（ピック病）の病態、診断、治療 認知症の国家試験過去問題を解く	
4	アルコール依存症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
5	統合失調症およびその関連障害		統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態、治療、自己臭恐怖の病態	
6	うつ病		うつ病の病態、診断、治療	
7	双極性障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
8	パニック症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
9	適応障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
10	摂食障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
11	睡眠障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
12	境界性パーソナリティ障害		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
13	自閉症		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
14	てんかん		病態、診断、治療 国家試験過去問題を解く	
15	総まとめ		総まとめ	
教科書・教材		評価基準		評価率
臨床につながる精神医学（医歯薬出版）		期末試験		100%
				その他
				毎回、授業の終わりに質問時間を設ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康管理学		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
パラスポーツを通して健康の概念を理解し、作業療法士が対象者の健康増進、社会参加に関わる必要性を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
パラスポーツの意義を知り、作業療法士が対象者の健康増進、社会参加に関わることの必要性を理解できる。基本的なパラスポーツについて考案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 病院での作業療法士としての臨床経験を活かし、学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
・ 予習：あらかじめ該当するテーマに関する教科書に目を通しておく。 ・ 復習：配布資料と教科書を照らし合わせながら学習する。 ・ 私生活において、関連するニュースに注目しておきましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	パラスポーツの意義と理念 1		スポーツの意義と価値 パラスポーツの意義と理念	
2	パラスポーツの意義と理念 2		スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	
3	パラスポーツ指導とコミュニケーション		コミュニケーションスキルの基礎	
4	パラスポーツの推進とパラスポーツ指導員の参画 1		パラスポーツに関する諸施策 パラスポーツ推進の取り組み	
5	パラスポーツの推進とパラスポーツ指導員の参画 2		地域におけるパラスポーツ振興、キャリア形成	
6	安全管理		安全管理 リスクマネジメント	
7	身体の仕組みと障がいの理解 1		身体の仕組みと体力づくり 各障害の理解	
8	身体の仕組みと障がいの理解 2		障害各論 身体障がい	
9	身体の仕組みと障がいの理解 3		障害各論 知的障がい、精神障がい	
10	パラスポーツ指導の基礎 1		各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫 障がい者のスポーツ指導における留意点	
11	パラスポーツ指導の基礎 2		スポーツ心理学	
12	パラスポーツの計画・実践 1		障がいを想定し、パラスポーツを計画、実践	
13	パラスポーツの計画・実践 2		障がいを想定し、パラスポーツを計画、実践	
14	パラスポーツの計画・実践 3		障がいを想定し、パラスポーツを計画、実践	
15	パラスポーツの計画・実践 4		障がいを想定し、パラスポーツを計画、実践	
教科書・教材		評価基準		評価率
配布資料		期末試験		100.0%
				グループ課題では積極的に発言しよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
老年学		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・ 身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく ・ 老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める ・ 高齢障害者における作業療法士の役割を考えていく				
授業終了時の到達目標				
・ 老年期の身体的変化、精神的変化を理解する ・ 高齢者の特有な疾病について理解する ・ 高齢者の特徴を理解し、関わる事ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。		
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書の確認と、解剖学・運動学・生理学等の復習をしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	老年学総論 1		1) 老年学とは 2) 高齢者とは 3) 高齢者には何が必要か	
2	老年学総論 2		1) 高齢者に対して私たちは何ができるか 2) 高齢者の薬物療法	
3	高齢者に特有の疾患・障害 1		1) フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム 2) 転倒・骨折等 3) 骨粗鬆症	
4	高齢者に特有の疾患・障害 2		1) 脱水・熱中症 2) 低体温症 3) その他	
5	高齢者に特有の疾患・障害 3		1) MCI・認知症	
6	高齢者に特有の疾患・障害 4		1) 認知症の評価（HDS-R、MMSE、その他） 2) うつ病	
7	高齢者に特有の疾患・障害 5		1) 栄養障害 2) 摂食嚥下障害 3) 排泄障害 褥瘡	
8	主要疾患における高齢期の特徴 1		1) 生活習慣病	
9	主要疾患における高齢期の特徴 2		2) 心疾患・呼吸器疾患	
10	主要疾患における高齢期の特徴 3		3) 腎疾患 4) がん	
11	地域の高齢者との交流 1		地域で暮らす高齢者について高齢者と作業	
12	地域の高齢者との交流 2		高齢者とのコミュニケーション ゴンタくんサロン準備	
13	地域の高齢者との交流 3		ゴンタくんサロン参加を通して、地域の高齢者を知る	
14	地域の高齢者との交流 4高齢者を取り巻く環境 1		振り返りとまとめ 1) 高齢者を取り巻く課題	
15	高齢者を取り巻く環境 2由とめ		1) 介護と虐待問題 2) まとめ	
教科書・教材		評価基準		評価率
リハビリテーション基礎講座 老年学（医歯薬出版）		期末試験 課題・レポート		90% 10%
				その他 課題提出期限遅れは 採点の対象とならない

保健医療福祉と リハビリテーションの理念

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	横倉 益弘
授 業 の 概 要				
リハビリテーション医学の概論ではあるが、リハビリテーションの歴史から先進的リハビリテーション工学の紹介、関連職種との連携を通して、これから学ぶ基礎医学から臨床医学、そして理学療法・作業療法の専門の基礎的知識とする				
授業終了時の到達目標				
リハビリテーション医学の概要を理解し、これから学ぶ臨床医学や専門分野に対する意識を高める				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 病院での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する			
時間外に必要な学修				
事前に配布している授業資料を見て予習を行う。リフレクションシートや振り返りテストを使って授業の復習をする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	【総論】 リハビリテーション医学	・ガイダンス ・シラバス ・コマシラバス ・リハビリテーションを取り巻く日本の社会的背景		
2	リハビリテーションってなに？	・リハビリテーションとは ・リハビリテーションの定義と目的及び歴史 ・ノーマライゼーション		
3	リハビリテーションってなに？	・自立生活（IL）運動 ・ＱＯＬ ・リハビリテーション医学の新しい試み		
4	リハビリテーションはなぜ必要か？	・障害のモデル ・ＩＣＩＤＨ ・ＩＣＦ ・障害の受容		
5	リハビリテーションはなぜ必要か？	「演習」 ・ペーパーペシエント（症例を提示） ・障害の受容についてグループ討議		
6	リハビリテーションとチーム医療	・チーム医療 ・チーム医療と他職種連携 ・チーム医療を支える医療職		
7	【各論】「活動を育む」リハビリテーション医学とは？	・活動 ・人間の動く仕組み ・歩行と移動 ・活動からＡＤＬへ		
8	リハビリテーション医学とは	・廃用症候群 ・過用症候群 ・誤用症候群		
9	リハビリテーションを支える社会保障制度	・医療保険制度 ・介護保険制度・地域包括ケアシステム		
10	高齢者のリハビリテーション	・予防医学とリハビリテーション ・老年症候群（サルコペニア、ロコモ、フレイル）		
11	リハビリテーション工学ってなに？	・リハビリテーション工学 ・自助具 ・歩行補助具 ・車いすとシーティング ・ロボテックス		
12	栄養とリハビリテーション	・栄養 ・摂食嚥下 ・摂食嚥下障害		
13	リハビリテーション評価とは	・評価 ・形態測定 ・関節可動域テスト ・筋力テスト ・ＦＩＭ		
14	リハビリテーション評価	・「演習」 ・形態測定 ・関節可動域テスト ・筋力テスト		
15	まとめ	・リハビリテーション医学のまとめ ・定期試験範囲について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーション概論のいろは（南江堂）		期末試験	100%	事前学習として、テキストに目を通しておくこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健医療福祉連携論		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
・日本の社会保障制度の背景を理解する。 ・リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や施設での実務経験を生かして学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
・身近な社会保障制度について関心をもつ ・課題の実施				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会保障制度の概念を理解する（1）		・社会保障制度と概要 ・日本国憲法25条について	
2	社会保障制度の概念を理解する（2）		・各種制度に関するワーク	
3	社会保障制度の調べ学習（1）		調べ学習～まとめる作業	
4	社会保障制度の調べ学習（2）		調べ学習～まとめる作業	
5	発表と振り返り		発表と振り返り	
6	医療体系		・少子高齢化の特徴・一次医療、二次医療、三次医療について ・医療圏と特殊医療	
7	老人の医療と福祉		・老人保健法と老人福祉法について ・ゴールドプラン・介護保険制度 ・予防（一次、二次、三	
8	介護保険制度概要		・介護保険制度概要 ・地域包括ケアシステムについて	
9	医療法とその改正（1）		・医療法について ・わが国の医療制度の特徴について	
10	医療法とその改正（2）		・医療法とその改正について ・日本の医療制度について	
11	社会保障費と医療費		社会保障費と医療費について	
12	社会保障費と医療財政 医療保険制度		・社会保障費と医療財政について ・医療保険制度について	
13	診療報酬支払い制度 医療提供体制		・診療報酬支払い制度について ・医療提供体制について	
14	他職種連携と地域連携		・他職種連携のありかた ・地域包括ケアシステムと療法士の役割	
15	社会保障制度まとめ		まとめと定期試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・保健医療福祉制度論（ミネルヴァ書房） ・公衆衛生がみえる（メディックメディア）		期末試験 課題	80% 20%	社会情勢、特に政治、経済、保健、医療に関わる情報収集に努める。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域・国際コミュニティ論		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・ 地域における社会資源やコミュニティ活動の概要・必要性を学び、作業療法士がどのような役割を担い活躍できるか、理解を深める				
・ 各国の作業療法士の状況、国際的に活躍する作業療法士について理解を深め、作業療法士の視野を広げる				
・ 地域で活躍する外国人の文化に触れ、価値観の違いによる地域の暮らしやすさについて、理解を深める				
授業終了時の到達目標				
・ 地域のコミュニティー活動について理解し、作業療法士の役割を考察できる				
・ グローバルな視野を持ち、多様な価値観を尊重し、支援できる作業療法士を目指す				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生がイメージしやすいような授業の展開を実施する。			
時間外に必要な学修				
・ 自身の居住地域のコミュニティ活動について必要な情報収集、参加を通して理解を深める				
・ 国際的視野を持ち、価値観の違いについて理解するため、TVやWeb等の情報に注意を向ける				
回	テ ー マ		内 容	
1	地域コミュニティの概要 1		・ 地域とは ・ コミュニティセンターとは ・ 地域における自助と互助の役割	
2	地域コミュニティの概要 2		・ 各地域におけるコミュニティーセンターの活動	
3	地域を知る 1		・ 生活圏域における利便性と社会資源 ※学内調査。実際の調査は後期の地域作業療法学で実施	
4	地域を知る 2		・ まとめと発表	
5	コミュニティーセンターの方から話を聞く 1		・ 地域におけるコミュニティーセンターの役割 ・ 取り組み事例 課題①	
6	コミュニティーセンターの方から話を聞く 2		・ 振り返り ・ 作業療法士が地域に貢献していくために	
7	各国作業療法士の情勢		・ 各国の作業療法の状況	
8	国際交流		・ JICAで活躍する作業療法士	
9	地域で活躍する外国人		・ 香川県における現状（観光・留学・就労） ・ やさしい日本語	
10	留学生から話を聞く 1		・ 留学生の文化を知る ※穴吹グループの留学生と面談のための準備	
11	留学生から話を聞く 2		・ 話を聞く	
12	留学生から話を聞く 3		・ まとめと発表準備	
13	留学生から話を聞く 4		・ 発表 ・ 振り返り 課題②	
14	地域防災		・ 地域における防災対策 ・ 作業療法協会・県士会による災害支援	
15	まとめ		・ 作業療法士としてできること ・ 定期試験に向けて	
教科書・教材			評価基準	評価率 その他
配布資料			期末試験 レポート	80% 課題提出期限の遅れは採点の対象とならない 20%

基礎作業療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
・ 作業療法に対する理解を深める。 ・ 作業療法士に求められる役割を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 作業療法の範囲について説明をすることができる。 ・ 作業療法士の役割、作業療法の流れ、業務について説明できる。 ・ 作業療法士に対する魅力が深まり、今後への動機づけとつなげていく。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年の勤務経験。 これまでの作業療法実践を活かし、作業療法についての魅力が深まるよう指導を行う。			
時間外に必要な学修				
次回の授業範囲について、教科書を読んで予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	作業とは①	1、作業と作業療法 2、生活を構成する作業活動 3、作業療法の定義		
2	作業とは②	4、課題 5、発表		
3	作業療法の領域①	1、作業療法の対象 2、作業療法の領域		
4	作業療法の領域②	3、作業療法の実践の流れ 4、作業療法の実施場所		
5	障害体験①	1、片麻痺者を想定したADL・IADLの実施		
6	障害体験②	2、グループワーク 3、発表		
7	作業療法の歴史・理論①	1、日本の歴史 2、世界の歴史		
8	作業療法の歴史・理論②	3、各国の状況 4、代表的な作業療法の理論について		
9	作業療法の法と倫理	1、理学療法士および作業療法士法 2、日本作業療法士協会倫理綱領		
10	多職種連携によるチームアプローチ	1、専門職チームの意味と意義 2、チームのタイプと特徴 3、組織の連携		
11	作業療法の実践課程①	1、目的 2、実践課程 3、評価と問題点の抽出		
12	作業療法の実践課程②	4、ICFモデル 5、治療・指導・援助計画の立案・フォローアップ		
13	各領域における作業療法実践課程①	1、身体機能分野 2、精神機能分野		
14	各領域における作業療法実践課程②	3、発達過程分野 4、高齢期分野 グループワーク・講義		
15	まとめ	1、グループワーク振り返り 2、クリニカルリーズニング 3、作業療法の自己活用 4、試験に向けて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学概論（医学書院）		期末試験	100%	グループワークを含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法理論		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加 奈 子
授 業 の 概 要				
作業療法理論に基づいた評価や解釈の方法を学び、治療に結び付けていく				
授業終了時の到達目標				
・ 作業療法理論の理解を深め、目的に応じた評価をする事が出来る。 ・ 作業の重要性と作業療法の独自性を理解し、示していく事が出来る ・ 作業療法理論を実際に活用する事が出来る				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験あり。 これまでの作業療法実践を活かして、作業療法の理論に対する知識と技術を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りと課題実施。				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業療法の歴史・作業療法の理論		1、作業療法の歴史と理論 2、クリニカルリーズニング	
2	作業科学（OS） 1		1、作業科学の概要 1 課題提示①	
3	作業科学（OS） 2		1、作業科学の概要 2	
4	作業科学（OS） 3		1、作業科学の概要 3 2、事例紹介	
5	クライアント中心の作業療法 カナダモデル（CMOP－E） 1		1、クライアント中心の実践とは 2、理論の概要	
6	クライアント中心の作業療法 カナダモデル（CMOP－E） 2		3、COPMの枠組み 小テスト 課題提示②	
7	クライアント中心の作業療法 カナダモデル（CMOP－E） 3		5、カナダ実践プロセスの枠組み 6、事例検討	
8	ADOC AMPSの概要		1、ADOCの概要 2、AMPSの概要	
9	作業療法介入プロセスモデル （OTIPM） 2		3、課題提示③、実習 小テスト 4、発表と事例検討	
10	作業療法介入プロセスモデル （OTIPM） 3		5、作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）	
11	人間作業モデル（MOHO） 1		1、MOHOの枠組み 2、課題提示④	
12	人間作業モデル（MOHO） 2		3、MOHOの枠組み 4、MOHOの代表的な評価法	
13	人間作業モデル（MOHO） 3		5、MOHOの代表的な評価法 課題提示⑤	
14	人間作業モデル（MOHO） 4		6、事例検討	
15	クリニカルリーズニング まとめ		1、作業焦点と作業基盤 2、国家試験問題を解く 3、OTのキャッチコピーを考える 課題提示⑥	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書）作業療法理論の教科書（メジカルビュー）、作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド（医学書院）		課題	100%	課題提出期限遅れは採点の対象とならない

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
作業に関する基礎理論と分析を学び、体験学習も加え指導方法を検討していく。				
授業終了時の到達目標				
・ 作業遂行に関心をもち、身辺処理－生産活動－余暇を連続したながれで考えられるようになる ・ 作業療法の魅力が高まること				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
作業への関心をもつ。与えられた課題をこなす。				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業・作業活動		基礎作業学とは 作業の意味・特徴・作業活動 作業の障がい	
2	障がいとは		作業の分類とOTのかかわりかた 健康と作業 脳と作業活動との関係	
3	道具と作業の関係		人が作業をすることの効果 作業療法の症例紹介	
4	作業活動に伴う効用		効用の理解	
5	作業分析 1		分析とは 実際の作業を用いながら行う	
6	作業分析 2		実際の作業を用いながら（身体運動技能・認知技能・心理社会的技能）	
7	作業分析 3		実際の作業を用いながら（身体運動技能・認知技能・心理社会的技能）	
8	作業分析 4		実際の作業を用いながら（身体運動技能・認知技能・心理社会的技能）	
9	作業分析 5		工程分析から動作分析 そして運動認知分析の流れ	
10	作業をどのようにもちいるか 1		作業をどのようにもちいるか 障がいとの関係	
11	作業をどのようにもちいるか 2		効果的な学習条件	
12	指導法 1		指導法	
13	指導法 2		伝え伝わり かかわりのコツ	
14	作業の治療的応用		作業科学 症例提示し作業訓練の紹介	
15	症例検討		重要点の復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 作業－その治療的応用（協同医書出版） ・ ひとと作業（三輪書店） ほか		課題・レポート	100%	グループ活動含む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅰ		作業療法学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ。また分析を通して作業活動の用い方やその作業活動に必要な機能を確認し、治療手段として活用するときの指導方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
実習を通して、臨床場面に応用するための考察ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
作業分析についてまとめる。 作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめてレポートとして提出する				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション、分析		前期講義の内容・レポート作成に関する説明	
2	園芸作業 ①		園芸に対する作業分析を行う	
3	園芸作業 ②		園芸作業活動実践	
4	園芸作業 ③		園芸作業活動実践	
5	園芸活動 ④		作業活動分析・レポート作成	
6	革細工 ① 革細工について		革細工の作業説明、治療効果などについて説明する カーヴェリング、モデリング、スタンピングの説明・実施	
7	革細工 ② 小銭入れ作成		革の裁断とデザイン転写	
8	革細工 ③ 小銭入れ作成		小銭入れ作成：作品作りと作業分析（スタンピング作業）	
9	革細工 ④ 小銭入れ作成		小銭入れ作成：作品作りと作業分析（レーシング作業）	
10	革細工 ⑤ 小銭入れ作成		小銭入れ作製：染色、仕上げ	
11	革細工 ⑥ 小銭入れ作成		作業分析のまとめ	
12	木工作業 ①		鋸動作などの動作分析について考える	
13	木工作業 ②		釘打ち動作などの動作分析について考える	
14	軽作業活動分析		軽作業活動 作業分析	
15	軽作業活動分析・レポート作成		作業分析とレポート作成	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学（協同医書出版）		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ。また分析を通して作業活動の用い方やその作業活動に必要な機能を確認し、治療手段として活用するときの指導方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
実習を通して、臨床場面に応用するための考察ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして作業分析について指導する			
時間外に必要な学修				
作業分析についてまとめる。 作業ごとに作業分析と段階付け、リスク管理などをまとめてレポートとして提出する				
回	テ ー マ	内 容		
1	タイルモザイク	タイルモザイクの予習、道具の説明		
2	タイルモザイク	作業活動実践		
3	タイルモザイク	作業活動実践		
4	タイルモザイク分析	包括的作業活動分析		
5	陶芸活動	陶芸の説明、計画立案		
6	陶芸活動	作業活動実践		
7	陶芸活動	作業活動実践		
8	陶芸活動	作業活動実践		
9	陶芸活動	作業活動実践		
10	陶芸活動	包括的作業活動分析		
11	軽作業活動体験	作業活動実践		
12	軽作業活動体験	作業活動実践 分析		
13	レクリエーション	即時作業分析		
14	レクリエーション	グループごとに企画、準備		
15	レクリエーション	指導の実施と振り返り(分析)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布 作業療法学全書改訂第2版 第2巻 基礎作業学（協同医書出版）		課題・レポート	100%	授業は実技形式にて作業活動を行う

作業療法管理学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
作業療法管理学Ⅰ		作業療法学科／2年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加 奈 子	
授 業 の 概 要					
・ PT・OT法を始め、作業療法業務に必要な診療報酬制度など、関係する法規について学ぶ ・ 業務遂行する上で、文書管理や物品管理および時間管理について学ぶ ・ 倫理について学ぶ					
授業終了時の到達目標					
上記の「授業の概要」に記した内容について他者に説明できるようにする					
実務経験有無		実務経験内容			
有		作業療法士として5年以上の実務経験 病院や通所施設での作業療法経験を活かし、教授する。			
時間外に必要な学修					
・ 見学実習を思い出し、実習先ではどのように物品や時間管理していたか振り返る ・ 配布資料を事前に読む					
回	テ ー マ		内 容		
1	管理学とは		リハビリテーションにおける管理学 組織と関連法規		
2	各種関連法規		医療福祉に関する組織や施設と法律 年金、雇用保険等各種制度		
3	リスク管理 1		病院や施設で起こりうる有害事象		
4	リスク管理 2		対象者・家族からのクレーム ハラスメントとメンタルヘルス		
5	病院における管理・運営 1		人事・人材 業務管理・記録、他職種連携		
6	病院における管理・運営 2		SOAPを用いた記録法		
7	病院における管理・運営 3		物品管理 診療報酬制度と収益		
8	病院における管理・運営 4		時間管理 週間プログラム立案		
9	職業倫理 1		医療者従事者の倫理		
10	職業倫理 2		日本作業療法士協会の倫理綱領、職業倫理指針		
11	職業倫理 3		作業的公正・不公正 事例を通して倫理を考える		
12	教育 1		キャリアについて 1		
13	教育 2		キャリアについて 2		
14	教育 3		キャリアについて 3		
15	まとめ		国家試験問題 授業の振り返り		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
リハビリテーション管理学（羊土社） プリント配布			定期試験	100%	課題提出期限遅れは 採点の対象とならない

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法管理学Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
教育法や研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務において、その知識が活用できるようにする				
授業終了時の到達目標				
・ 作業療法教育に関する知識を学び、生涯学習、後輩育成に活かす ・ 研究の方法や手順に関する知識を学び、臨床における研究の手がかりや自己研鑽を深める				
実務経験有無		実務経験内容		
有	谷 渕 加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かして研究方法や教育法について教授する			
時間外に必要な学修				
自分の興味のあるテーマについて、調べ学習を行う				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業療法の研究法 1		研究の目的、方法 1	
2	作業療法の研究法 2		研究の目的、方法 2	
3	作業療法の研究法 3		研究の目的、方法 3 統計手法	
4	作業療法の研究法 4		調査研究 研究者の倫理	
5	作業療法の研究法 5		文献検索と文献抄読 1	
6	作業療法の研究法 6		文献検索と文献抄読 2	
7	作業療法の研究法 7		文献発表 課題①	
8	作業療法の研究法 8		研究計画書作成 1 学会参加	
9	作業療法の研究法 9		研究計画書作成 2	
10	作業療法の研究法 10		発表資料作成 1	
11	作業療法の研究法 11		発表資料作成 2	
12	作業療法の研究法 12		発表 ふりかえり 課題②	
13	教育法 1		OTにおける教育とは 1	
14	教育法 2		OTにおける教育とは 2	
15	教育法 3		自身のキャリアと今後の目標	
教科書・教材			評価基準	評価率
PT・OTのための臨床研究はじめての一步（羊土社）			課題・レポート 定期試験	50% 50%
				課題提出期限遅れは 採点の対象とならない

作業療法評価学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学概論		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
作業療法の中で行われる評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解する。評価の手段である面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する。また、関節可動域測定の概念や目的を理解し、測定の実技を習得する。				
授業終了時の到達目標				
作業療法がどのような流れで行われているか理解し、作業療法評価の目的を説明できる。評価に必要な面接や観察の目的と意義を理解する。意識障害やバイタル測定、関節可動域訓練の概要を学び、正確に行える技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、臨床場面に必要な評価について指導する			
時間外に必要な学修				
予習として次回の範囲のテキストを読んでおく。 小テストを行うため前回の復習をしておく。確認の実技テストも行うので実技練習も取り組んでおく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業療法における評価とは		作業療法における評価の目的と意義	
2	作業療法評価における情報収集		評価に必要な情報収集の目的や意義、情報収集する内容を理解する	
3	作業療法評価における面接とは		面接を行う目的と面接の実技について	
4	作業療法評価における観察とは		観察を行う目的を理解する 日常生活動作を観察し、問題点を考察する	
5	意識障害の評価		意識障害の評価の目的と意義について	
6	バイタルの評価と測定		バイタル測定を行う目的と意義	
7	関節可動域測定（ROM）の概要		関節可動域制限の定義と分類について 関節可動域制限の生じるメカニズムについて	
8	ROM測定の実技①		ROM測定における検査方法と注意点 肩関節のROM測定実技	
9	ROM測定の実技②		肩関節・肘関節のROM測定実技	
10	ROM測定の実技③		前腕・手関節・手指関節のROM測定実技	
11	ROM測定の実技④		股関節・膝関節・足関節のROM測定実技	
12	ROM測定の実技⑤		肩甲帯、体幹のROM測定実技	
13	ROM測定の実技⑥		ROM測定のまとめ	
14	面接の再復習		実習に向けて目的を持った面接ができるよう再復習する MTDLPの生活行為聞き取りシートを用いて面接練習を行う	
15	観察の再復習と記録について 評価のまとめ		評価に必要な観察の再復習を行う 評価から目標設定、治療プログラムの流れを理解する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第2版（医学書院） 新・徒手筋力検査第10版（協同医書出版）		期末試験	100%	講義内容によっては実技を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動器作業療法評価学		作業療法学科／2年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
運動器の疾患に関わる評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。症例をとおして必要な評価が計画できることを目標にする。				
授業終了時の到達目標				
各種評価法の使用目的を理解し、対象者の関わりにおいて適切に選択できる。 得られた結果と他の評価で得られた結果を統合・解釈することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する			
時間外に必要な学修				
次回の講義内容のテキストを確認しておく 実技の小テストを行うので実技の復習をする				
回	テ ー マ		内 容	
1	筋力検査の目的とMMT①		筋力検査の概要とMMTにおける検査方法と注意点	
2	MMT②		肩関節周囲のMMT 実技	
3	MMT③		肘関節・前腕・手関節周囲のMMT実技	
4	MMT④		股関節・膝関節のMMT実技	
5	MMT⑤		足関節周囲、体幹のMMT実技	
6	感覚検査		感覚検査 表在感覚 深部感覚 複合感覚の評価の評価	
7	形態測定・姿勢調整		上肢、下肢の形態測定 姿勢調整に必要な評価を行う	
8	バランス検査		バランス能力のみかた	
9	上肢機能検査		STEF、MFTの評価	
10	ICFについて①		ICFの分類について	
11	ICFについて②		ICFを考え方について	
12	ICFについて③		実際の症例を通してICFを考える	
13	評価計画について		評価の選択、計画について	
14	事例検討		事例を通して評価の計画を学ぶ	
15	まとめ		各評価の復習	
教科書・教材			評価基準	評価率
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版 （医学書院） 新・徒手筋力検査第10版（協同医書出版）			実技試験と期末試験	100%
				講義内容によっては実技を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
神経筋作業療法評価学		作業療法学科／2年	2025／前期	実技	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二	
授 業 の 概 要					
中枢疾患や筋疾患に関与する評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する。また画像所見からも評価が行えるように基礎的な知識の定着を目標とする。高次脳機能障害に対する検査も学習する。					
授業終了時の到達目標					
各検査の目的・準備物・方法・記録の仕方、結果に対する解釈を説明することができ、正確な評価を行うことができる。画像からも評価が行えることを目標とする。					
実務経験有無		実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての臨床経験を活かし、評価の目的や技術について指導する				
時間外に必要な学修					
次回の講義範囲についてテキストを確認しておく 小テストを行うため実技練習も行っておく					
回	テ ー マ		内 容		
1	中枢神経疾患や筋疾患の概要を学ぶ 画像の基礎知識について		中枢疾患や筋疾患などの概要を理解する。画像所見から評価ができるよう基礎的な知識を理解する。		
2	脳画像について		脳画像から考えられる症状を読み取り、評価へとつなげていく。		
3	片麻痺の回復段階		ブルンストローム法、上田の12グレード法		
4	腱反射、病的反射		概要と評価の説明および実技を習得する		
5	筋緊張検査		筋緊張のみかた 評価について		
6	脳神経検査		第1脳神経～第12脳神経の検査方法		
7	小脳機能検査		四肢の運動失調、測定異常など		
8	中枢疾患特有の評価		FMAなどの中枢疾患特有の評価について		
9	高次脳機能障害について（総論）		高次脳機能障害を脳解剖の視点で考える		
10	半側空間無視		概要と評価の説明および実技を習得する		
11	記憶障害		概要と評価の説明および実技を習得する		
12	注意障害		概要と評価の説明および実技を習得する		
13	遂行機能障害、失行など		概要と評価の説明および実技を習得する		
14	認知機能に関わる評価		概要と評価の説明および実技を習得する		
15	まとめ		各評価の復習と確認テスト		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院） 作業療法テキスト 高次脳機能障害・実習（中山書店）			実技試験と期末試験	100%	講義内容によっては実技を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学演習Ⅰ		作業療法学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
評価実習に向けて必要な情報収集、評価計画、目標設定、治療プログラムについての理解を深める。 模擬症例を通じて評価の流れと統合と解釈について理解する。 客観的臨床能力試験（OSCE）を用いて臨床で必要な技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
評価から対象者の問題点を抽出し、目標設定と治療プログラムが立案できる。 客観的臨床能力試験より臨床に必要な技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、評価について指導する。			
時間外に必要な学修				
配布したプリントを確認し、復習すること。客観的臨床能力試験に向けて実技練習をしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 模擬症例を通して評価を考える		評価の流れについて 模擬症例の提示	
2	情報収集について		情報収集のまとめ方と他部門からの情報収集 模擬症例の情報を整理する	
3	評価計画の立案について		評価計画の立案について 模擬症例の評価計画を立てる	
4	ICFの定義と分類について		ICFの定義を理解し、分類について学習する 模擬症例の問題点をICFに分類する	
5	目標設定について 治療プログラムについて		目標設定と治療プログラムの立案の考え方を学ぶ 模擬症例の目標設定と治療プログラムを立案する	
6	統合と解釈について		統合と解釈から考察の考え方を理解する 模擬症例の考察を考える	
7	評価の再復習 評価実技①		ADLの動作の観察を再復習する 評価実技の再復習を行う	
8	評価の再復習 評価実技②		評価実技の再復習を行う	
9	客観的臨床能力試験（OSCE） ①		OSCEの説明と課題設定	
10	客観的臨床能力試験（OSCE） ②		OSCEに向けての練習	
11	客観的臨床能力試験（OSCE） ③		OSCEに向けての練習	
12	客観的臨床能力試験（OSCE） ④		OSCEに向けての練習	
13	客観的臨床能力試験（OSCE） ⑤		OSCEに向けての練習	
14	客観的臨床能力試験（OSCE） ⑥		OSCEの実施	
15	客観的臨床能力試験（OSCE）のまとめ ⑦		OSCEの実施と評価実習に向けてのまとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポートと客観的臨床能力試験	100%	講義内容によっては実技を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法評価学演習Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
評価実習で実際に行った評価について振り返る。 実習での症例をもとにケースレポートを作成する。 ケースレポートを発表し、症例に対する考え方を説明することで評価について理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
評価実習で学んだことをレポートにまとめることで評価実習での関わりを振り返る。 症例を通して対象者の理解を深め、臨床実習へつなげていく。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法の経験を活かして、評価や治療プログラムについて指導する。			
時間外に必要な学修				
配布したプリントを確認し、復習すること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	評価実習の振り返り 評価レポート作成の流れ		評価実習で学んだことを振り返る 評価レポートの作成の流れについて説明する	
2	情報収集について		症例に必要な情報を整理し、足りない情報について確認する	
3	評価計画の見直しと評価実技の再復習		評価の目的や意味を理解し、適切な選択を行う 実習でうまくできなかった評価について再確認を行う	
4	I C Fの分類について		症例の問題点をI C Fに分類し、否定的側面と肯定的側面について理解を深める	
5	目標設定について		問題点より症例に対する目標を考えていく	
6	考察について		考察に対する考え方について再復習する	
7	考察についてまとめる		症例に対する考察を考える	
8	レジメの作成		ケースレポートを発表用レジメにまとめる	
9	MTDLPを用いて症例について考える		MTDLPのシートを活用して症例をまとめていく	
10	MTDLPシートにまとめていく ①		生活行為マネジメントシート、生活行為課題分析シートにまとめていく	
11	MTDLPシートにまとめていく ②		生活行為マネジメントシート、生活行為課題分析シートにまとめていく	
12	症例発表 ①		レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する	
13	症例発表 ②		レジメに沿って発表を行っていく 他の学生の発表を聞き、質問や考えを議論する	
14	治療プログラムについて		治療プログラムのついでの方について理解する	
15	治療プログラムの実施 まとめと臨床実習に向けて		実際に立案した治療プログラムを実施する 臨床実習にむけてまとめる	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100%	実習で関わった症例をまとめていく

作業療法治療学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
中枢神経疾患作業療法学Ⅰ		作業療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
脳血管疾患によって生じる症状の原因と臨床像を把握し、作業療法評価、アプローチについて他者に説明できることを目標とする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの病院での経験を活かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
・1年生で学んだ神経解剖学、神経生理学の復習をしておきましょう。 ・片麻痺の方がどのように生活しているかイメージしながら過ごす時間をとってみましょう。				
回	テ ー マ	内 容		
1	脳血管障害の作業療法概要	脳血管障害のリハビリテーションの流れ、OTの役割 事例報告		
2	脳血管障害の症状と作業療法評価①	意識障害、片麻痺、痙縮、拘縮		
3	脳血管障害の症状と作業療法評価②	肩の問題（HPS、肩手症候群など）、感覚障害、運動失調 （小脳性・深部感覚性）		
4	脳血管障害の症状と作業療法評価③	ADL障害、歩行障害（脳卒中後の歩行パターンの類型） 摂食嚥下障害		
5	脳血管障害の症状と作業療法評価④	Fugl-Meyer Assessment（FMA）、NIHSS、SIAS ブルンストローム・ステージ		
6	脳血管障害の生活行為 1	脳血管障害の生活行為の特徴、ADLアプローチのポイント 各ADLの特徴とアプローチの概要		
7	脳血管障害の生活行為 2	BRSごとのADL、動作分析		
8	脳血管障害の上肢機能に対する アプローチ	治療戦略について		
9	脳血管障害に対するアプローチ 1 ～急性期の作業療法～	急性期リハの目的 各アプローチのポイント		
10	脳血管障害に対するアプローチ 2 ～急性期の作業療法～	急性期リハの目的 各アプローチのポイント		
11	脳血管障害に対するアプローチ ～回復期・生活期の作業療法～	回復期リハの目的 各アプローチのポイント		
12	脳血管障害の高次脳機能障害に対す るアプローチ ～半側空間無視～	半側空間無視の概要、ADLへの影響 半側空間無視のアプローチ		
13	脳血管障害の高次脳機能障害に対す るアプローチ～注意障害、失語症～	脳血管障害に伴う「注意障害」と「失語症」「失行症」に ついての概要とアプローチを学習		
14	脳血管障害の高次脳機能障害に対す るアプローチ～記憶障害など～	記憶障害、遂行機能障害のアプローチ概要 社会的行動障害へのアプローチ		
15	脳血管障害に対する作業療法 まと め	脳血管障害に対する作業療法の過程		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・脳卒中（医歯薬出版） ・図解 作業療法技術ガイド（文光堂） ・配付資料		期末試験	100.0%	神経病学Ⅱと合わ せて学習しよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
中枢神経疾患作業療法学Ⅱ		作業療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
難病、脊髄損傷その他の中枢性疾患に対する作業療法について学ぶ。また、ICFに基づき抽出した問題点解決に向けた治療、支援を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
難病、脊髄損傷などの疾患に対して、各疾患の臨床像を理解した上で、生活行為の向上に向けたプランを立案できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 リハ病院での作業療法経験を活かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
・ 予習：各疾患の基礎知識について、予め確認しておく。 ・ 復習：配布資料を振り返り学習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	脊髄損傷とは		脊髄の解剖と病態生理 脊髄損傷の症状と診断	
2	脊髄損傷の症状と合併症		脊髄損傷高位と機能との関係、病変部位と麻痺、排尿障害・排便障害、合併症（骨萎縮、尿路感染症など）	
3	脊髄損傷に対する作業療法評価		Frankel分類、ASIA機能障害尺度、Zancolli分類など	
4	脊髄損傷の生活行為		各髄節レベルにおいて獲得可能とされる生活行為について	
5	脊髄損傷に対する作業療法プログラム		作業療法の基本的視点と介入のポイント 事例（MTDLP）	
6	脊髄損傷まとめ		国家試験	
7	パーキンソン病に対する作業療法1		病態・診断、臨床像について	
8	パーキンソン病に対する作業療法2		作業療法評価、プログラムについて	
9	パーキンソン病に対する作業療法3		事例（MTDLP） 国家試験	
10	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法1		病態・診断・病型・予後・合併症について ALSに対する作業療法評価、プログラム	
11	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法2		ICT機器、環境制御装置について 透明文字盤体験と意思伝達について	
12	脊髄小脳変性症に対する作業療法		主症状・重症度分類・作業療法評価・プログラムについて	
13	ギランバレー症候群・多発性筋炎に対する作業療法		主症状・作業療法評価・プログラムについて	
14	多発性硬化症に対する作業療法1		病理・発生メカニズム・作業療法評価について	
15	多発性硬化症に対する作業療法2 まとめ		作業療法プログラムについて	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法技術ガイドブック（文光堂）		期末試験	100.0%	解剖学、神経病学Ⅰを振り返ろう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動器疾患作業療法学Ⅰ		作業療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ハンドセラピーを臨床で実践するために必要な基礎知識を理解する ・疾患について病態像を把握し、作業療法治療に適切に結びつけることができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りを行う				
回	テ ー マ	内 容		
1	ハンドセラピー	ハンドセラピー概論 手の働きと知覚との関係		
2	ハンドセラピー	ハンドセラピー評価の各方法とその解釈の仕方		
3	ハンドセラピー	ハンドセラピープログラム		
4	末梢神経損傷	末梢神経概論		
5	末梢神経損傷	末梢神経の評価		
6	末梢神経損傷	末梢神経損傷の作業療法		
7	絞扼性神経障害	絞扼性神経障害に関する知識・評価・治療		
8	関節リウマチ	診断学・病態		
9	関節リウマチ	作業療法		
10	関節リウマチ	日常生活活動支援		
11	熱傷	熱傷の特徴		
12	熱傷	熱傷の問題点 評価		
13	熱傷	各時期のプログラム		
14	スポーツ外傷	基礎知識と疾患に対する作業療法		
15	まとめ	理解度チェック		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・作業療法技術ガイド（文光堂） ・ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） ・ハンドセラピーシリーズ ほか		期末試験	100%	基礎知識重要

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動器疾患作業療法学Ⅱ		作業療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	田村 篤史
授 業 の 概 要				
解剖学、生理学的メカニズムなどの基本的知識を解説し、作業療法介入を学習。また作業療法がもつ独自の治療・訓練支援の特徴を理解する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患に対する治療の実際について習得し、作業療法士としてののかかわりを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士としての5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
・ 予習：各疾患の基礎知識について、予め確認しておく。 ・ 復習：配布資料を振り返り学習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	腕神経叢損傷		腕神経叢の解剖、特徴 術式	
2	腕神経叢損傷		腕神経叢損傷の医療的治療と作業療法評価・療法 機能再建術後の作業療法介入の進め方	
3	腱板損傷		腱板損傷の特徴 腱板損傷に対するリハビリテーション	
4	腱損傷		腱の基本的構造 腱の修復過程	
5	腱損傷		屈筋腱損傷の特徴 治癒過程と療法の流れ	
6	腱損傷		伸筋腱の特徴 伸筋腱の対するプロトコール	
7	腱鞘炎		特徴と療法	
8	関節症		母指CM関節症 変形性肘関節症	
9	疼痛に対する作業療法アプローチ		CRPSと介入方法	
10	肩		介入方法	
11	骨折		骨折の基礎知識 人体解剖	
12	骨折		各骨折の復習 レントゲン交え症例紹介	
13	骨折		ロッキングプレート 評価の抽出と一般的な作業療法のながれと注意点	
14	骨折		症例紹介	
15	画像の診方 まとめ		画像の診方 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 作業療法技術ガイド（文光堂） ・ ハンドセラピー ほか		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内部疾患作業療法学		作業療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
生活習慣との関連性が高く、対象者人口も多い心疾患や呼吸器疾患等に対する生活指導を含めた作業療法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・各内部疾患の症状や生活習慣との関連性について説明できる。 ・対象者の生活機能向上を目指したプログラムの立案ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
授業内容の振り返りを行う				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業概要の説明 内部障害作業療法総論	授業概要の説明 内部障害の定義、作業療法の役割 など		
2	呼吸 1	呼吸器系の解剖、生理、病態 呼吸不全の定義と基準 など		
3	呼吸 2	呼吸リハビリテーションにおける評価の目的 評価の進め方と評価項目 など		
4	呼吸 3	呼吸リハビリテーションの概要、コンディショニング 運動療法、ADLトレーニング など		
5	呼吸 4	作業療法 OTが関わる意義、OT評価の流れ など		
6	呼吸 5	酸素療法、人工呼吸療法、薬物療法 など		
7	呼吸 6	吸引 吸引のための基礎知識、吸引の実際 など		
8	循環 1	バイタルサインとBLS/AEDについて		
9	循環 2	虚血性心疾患の病態、心電図について		
10	循環 3	心臓リハビリテーションの概要 歴史、時期区分、効果など		
11	循環 4	心臓リハビリテーションにおけるリスク層別化 リスクマネジメント、フィジカルアセスメント ほか		
12	代謝 1	栄養管理と血糖コントロールについて		
13	代謝 2	糖尿病合併症 急性合併症、慢性合併症、糖尿病患者の作業療法		
14	内部障害作業療法の実際 1	呼吸器疾患 COPD、間質性肺炎、誤嚥性肺炎等の患者へのOT		
15	内部障害作業療法の実際 2	循環・代謝疾患 心不全、糖尿病に伴う下肢動脈閉塞症患者へのOT		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝（15レクチャー）（中山書店）		期末試験（筆記試験）	100%	内科学の教科書に目を通し事前学習努める

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達障害作業療法学Ⅰ		作業療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
発達障害の作業療法を学ぶ基礎として、まず小児の正常発達について学び、脳性麻痺の臨床像、作業療法を学習する。				
授業終了時の到達目標				
正常発達と反射の関連について理解できる。 脳性麻痺の臨床像と作業療法について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。 病院での作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
・ 予習：教科書の該当する項目を読みましょう。 ・ 復習：配布資料をもとに振り返りましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	発達障害に対する作業療法の概要		正常運動発達を学ぶことの意義 知的・認知・精神機能の障害についての概要	
2	姿勢・運動の障害を中心とする発達障害の概要		脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎など	
3	正常運動発達と反射（階層性発達理論）		新生児期・乳児期に見られる反射の意義と見方	
4	原始反射・姿勢反射 1		神経の発達よりみた反射の発達 脊髄レベルについて	
5	原始反射・姿勢反射 2		神経の発達よりみた反射の発達 脳幹レベルについて	
6	原始反射・姿勢反射 3		神経の発達よりみた反射の発達 中脳レベル、大脳皮質レベルについて	
7	原始反射・姿勢反射 4		神経の発達よりみた反射の発達を国家試験問題を通して学ぶ。	
8	正常運動発達		腹臥位、背臥位、座位、立位の発達について	
9	発達課題		遊び・ADLの発達 遠城寺式乳幼児発達検査、DENVERⅡ	
10	発達評価		発達領域における各種検査測定について	
11	脳性麻痺の作業療法 1		脳性麻痺の臨床像（CPの定義・原因・症状の推移、病形分類、障害分類）、合併症、医学的治療について	
12	脳性麻痺の作業療法 2		痙直型脳性麻痺の特徴と作業療法評価	
13	脳性麻痺の作業療法 3		痙直型脳性麻痺の作業療法プログラム	
14	脳性麻痺の作業療法 4		アテトーゼ型脳性麻痺の特徴と作業療法評価	
15	脳性麻痺の作業療法 5		アテトーゼ型脳性麻痺の作業療法プログラム	
教科書・教材		評価基準		評価率
イラストでわかる発達障害の作業療法（医歯薬出版）		期末試験		100.0%
				積極的に質問して理解を深めよう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達障害作業療法学Ⅱ		作業療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	石井 晶子
授 業 の 概 要				
・発達障害作業療法学Ⅰで学んだ正常発達を基盤とし、疾患別の心身機能・構造をとらえ、評価及びアプローチを理解する。発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達の側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する。 ・臨床場面での症例や事例を多く紹介し、こどもたちがこどもらしく生きていくための根拠ある計画や解釈・アプローチができる。				
授業終了時の到達目標				
・正常発達の過程・諸概念を正しく理解し、解説できる。 ・発達障害の作業療法の役割を解説できる。 ・発達障害児の評価の基本である、観察の方法、各種の検査を紹介し、実施方法の概念を学ぶ。 ・以下にあげる疾患の臨床像を捉え、評価及びアプローチを理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
・予習：事前に教科書に目を通しておく ・復習：配布資料を基に振り返りを行う				
回	テ ー マ		内 容	
1	脳性麻痺 重症心身障害児		脳性麻痺と重症心身障害児（者）の関連について 特徴と作業療法評価、プログラム	
2	筋ジストロフィー 1		筋ジストロフィーとは何か？（障害の原因） 筋ジストロフィーの臨床像（分類と特徴）	
3	筋ジストロフィー 2		筋ジストロフィーに対する作業療法評価・プログラム 重症度分類 代償運動のとりえ方	
4	知的障害、ダウン症		知的障害、ダウン症の特徴と作業療法評価・プログラム	
5	二分脊椎、分娩麻痺		二分脊椎、分娩麻痺の特徴と作業療法	
6	発達障害（狭義）の総論		自閉スペクトラム症、注意欠陥/多動症、学習症、発達性協調運動症の概要	
7	小児リハビリテーションと支援制度		乳幼児期から青年期までの発達段階に応じた支援制度	
8	自閉スペクトラム症（ASD） 1		自閉スペクトラム症の特徴と作業療法	
9	自閉スペクトラム症（ASD） 2		自閉スペクトラム症に対する評価・プログラム	
10	注意欠陥/多動症（AD/HD）		注意欠陥/多動症（AD/HD）の特徴と作業療法	
11	学習症（LD）		学習障害（LD）の特徴と作業療法	
12	発達性協調運動症（DCD）		発達性協調運動症（DCD）の特徴と作業療法	
13	発達障害（狭義）のアプローチ 1		ASD、AD/HD、LD、DCDのアプローチの実践 1	
14	発達障害（狭義）のアプローチ 2		ASD、AD/HD、LD、DCDのアプローチの実践 2 障害児の保護者への子育て支援	
15	まとめ		各疾患ごとのまとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
・イラストでわかる発達障害の作業療法（医歯薬出版株式会社） ・配布資料・作業療法ジャーナル			期末試験	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神障害作業療法学概論		作業療学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	前田 悠志
授 業 の 概 要				
・精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。 ・精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する。				
授業終了時の到達目標				
・精神保健領域において作業療法の目的と手段、方法を説明できる。 ・精神保健領域において各職種の役割を理解し協業する方法を述べる事ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして学生に分かりやすく伝える。			
時間外に必要な学修				
予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 精神科医療状況概論		授業概要の説明、精神障害作業療法の概要	
2	精神科医療状況概論		精神科医療を取り巻く状況、携わる他職種の理解	
3	精神科領域での基礎理論 1		わが国の精神科医療と精神障害作業療法の歴史	
4	精神科領域での基礎理論 2		障害論（ I C F ）、精神障害リハビリテーションの理解	
5	精神科領域での基礎理論 3		精神障害作業療法での生活行為とは	
6	精神科領域での基礎理論 4		ライフサイクルや発達段階からの障害を捉える	
7	精神科領域での基礎理論 5		精神疾患とその症状、身体図式	
8	精神障害作業療法の基礎 1		精神障害作業療法の目的	
9	精神障害作業療法の基礎 2		精神障害作業療法で用いる作業活動（構成的作業）	
10	精神障害作業療法の基礎 3		精神障害作業療法で用いる作業活動（投影的作業）	
11	精神障害作業療法の基礎 4		精神障害作業療法で用いる集団（集団の種類やかたち等）	
12	精神障害作業療法の基礎 5		精神障害作業療法で用いる集団（個人と集団の関係、集団の成熟等）	
13	精神障害作業療法の役割（医療）		精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド（精神科作業療法、外来作業療法等）	
14	精神障害作業療法の役割（介護・障害福祉）		精神科領域の作業療法士が活躍するフィールド（訪問、就労支援等）	
15	精神障害作業療法概論のまとめ		講義の振り返り、学生からの質問への回答	
教科書・教材		評価基準		評価率
精神障害と作業療法 新版（三輪書店）		期末試験		100%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅰ		作業療学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	前田 悠志
授 業 の 概 要				
各精神疾患の作業療法について、その対応・治療について学び、臨床への応用の学びを深める。				
授業終了時の到達目標				
各精神障害に対する作業療法の治療・援助法について具体例を挙げて他者に説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 精神科作業療法の進め方		授業概要の説明 精神科作業療法の基礎、対象者の理解	
2	精神科作業療法の進め方		精神科作業療法の治療構造	
3	精神科作業療法評価概論		精神科作業療法評価の概要	
4	精神科作業療法評価概論		精神科作業療法評価の流れと計画	
5	精神科作業療法評価各論		各種評価法の説明	
6	精神科作業療法評価各論		各種評価法の説明	
7	精神科作業療法評価面接		半構成的面接を用いての説明と演習	
8	精神科作業療法評価面接		半構成的面接を用いての説明と演習	
9	精神科作業療法計画立案		作業療法計画立案についての概要	
10	精神科作業療法計画立案		MTDLPを用いた支援計画の理解	
11	疾患別作業療法評価計画支援		統合失調症と作業療法	
12	疾患別作業療法評価計画支援		気分障害/神経症圏/摂食障害と作業療法	
13	疾患別作業療法評価計画支援		物質関連障害/パーソナリティ障害/神経認知障害と作業療法	
14	地域生活支援と作業療法		地域生活支援に対しての評価と計画 チーム医療	
15	精神障害作業療法Ⅰのまとめ		本講義のまとめと精神保健福祉トピックスの説明	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
精神障害と作業療法 新版（三輪書店）		期末試験	100%	事例検討では積極的に考えを発すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神障害作業療法学Ⅱ		作業療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小松 博彦/福家 亜希子
授 業 の 概 要				
国家試験過去問題の事例を取り上げてグループ内で検討し、精神障害作業療法の対象者への作業療法サービス内容と基本的対応を身につける。				
授業終了時の到達目標				
各疾患について、その回復過程に応じた作業療法について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かして分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
テキストと配布プリントを読んで、予習復習に努めること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		授業概要の説明 グループ分けと役割分担の確認、事例の読み合わせ	
2	事例検討（統合失調症） 1		統合失調症/評価・評価実技	
3	事例検討（統合失調症） 2		統合失調症/課題抽出、計画立案	
4	事例検討（統合失調症） 3		統合失調症/治療のデモ確認	
5	事例検討（統合失調症） 4		治療内容の紹介 1	
6	事例検討（統合失調症） 5		治療内容の紹介 2	
7	事例検討/気分障害 1		気分障害/評価・評価実技	
8	事例検討/気分障害 2		気分障害/課題抽出、計画立案	
9	事例検討/気分障害 3		治療内容の紹介 1	
10	事例検討/気分障害 4		治療内容の紹介 2	
11	事例検討/その他の疾患 1		パーソナリティ障害のOT内容	
12	事例検討/その他の疾患 2		心因性精神障害のOT内容	
13	事例検討/その他の疾患 3		摂食障害のOT内容	
14	事例検討/その他の疾患 4		てんかんのOT内容 1	
15	総まとめ		てんかんのOT内容 2 まとめ：国家試験過去問題を解く	
教科書・教材			評価基準	評価率
プリント配布			期末試験（筆記試験）	100%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢期作業療法学		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
高齢者は老化現象によって様々な機能が変化していきます。しかしながら、障害を持っていても元気で有意義に暮らしている高齢者もたくさんいます。ここでは高齢者の特徴や環境、高齢障害者に対する作業療法を考えていきます。				
授業終了時の到達目標				
・ 高齢者の特徴を理解できる ・ 高齢者の取り巻く環境や制度を理解できる ・ 高齢期疾患における作業療法を理解できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの高齢期領域の作業療法実践を活かして授業を進めていく。		
時間外に必要な学修				
該当範囲の教科書や資料の確認と、老年学を復習しておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1	高齢社会について		前期のふりかえり、高齢者の動向	
2	高齢者の社会福祉制度		1、高齢者福祉制度の始まり・流れ 2、高齢期の作業療法	
3	病期・場所に応じた治療・援助内容の違い		1、急性期～終末期 2、一般病院～在宅	
4	高齢者の作業		高齢者を取り巻く作業 事例検討	
5	大腿骨近位部骨折		疾患の特徴と作業療法	
6	認知症のある人の作業療法 1		1) 認知症の特徴・薬物療法 2) 認知症に関連した評価	
7	認知症のある人の作業療法 2		1) 作業療法目標・プログラム設定	
8	認知症のある人の作業療法 3		1) 作業療法の支援方法	
9	認知症のある人の作業療法 4		1) 環境設定・地域支援 2) 若年性認知症施策	
10	認知症のある人の作業療法 5		1) 事例検討 1	
11	認知症のある人の作業療法 6		1) 事例検討 2	
12	高齢期の摂食・嚥下障害 高齢者との交流準備		1) 摂食・嚥下障害における作業療法の実践 2) 高齢者との交流に向けた準備	
13	高齢者との交流		高齢者と交流を通して、高齢者の暮らしについてOTの視点で学ぶ ※課題レポート	
14	高齢期における終末期		終末期の作業療法	
15	高齢者に関連するトピックス		1) 高齢期に特有な交通事情（高齢者運転、交通事故） 2) 触法高齢者と高齢者に特有な犯罪被害	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学（医学書院）ほか		期末試験 課題レポート	90% 10%	範囲が広いため、試験に向けて定期的に振り返りをする

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活行為学Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・生活行為に関係する人―作業―環境の理解を深める ・生活行為に求められる評価を評価学と関連付けて学んでいく				
授業終了時の到達目標				
・生活行為における動きの特徴やバリエーションを理解する ・生活行為における対象者を観察する視点を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
該当範囲の予習復習。自身の生活行為に注意を向け、他者との違いを考察する				
回	テ ー マ		内 容	
1	生活行為について		ADLの分類・概念	
2	ADLを構成する基本動作 1		姿勢（臥位・座位・立位）と環境、観察の視点	
3	ADLを構成する基本動作 2		寝返り～起き上がりと環境、観察の視点	
4	ADLを構成する基本動作 3		起立・着座と環境	
5	ADL 1		食事の工程と観察	
6	ADL 2		整容の工程と観察	
7	ADL 3		更衣の工程と観察	
8	ADL 4		排泄の工程と観察 課題①	
9	ADL 5		入浴の工程と観察 課題②	
10	IADL 1		IADLとは 洗濯、掃除、整理整頓 課題③	
11	IADL 2		調理、買い物	
12	IADL 3		経済管理、外出	
13	余暇活動		余暇活動に関連する作業、評価 QOLとは	
14	睡眠と生活習慣		睡眠 生活習慣の特徴、評価、作業バランス	
15	各領域におけるADL		身障、精神、発達、高齢期領域におけるADL まとめと試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学ゴールドマスターテキストADL（メジカルビュー）、他		期末試験 課題	85% 15%	課題提出期限遅れは採点の対象とならない

作成者: 谷 渕 加奈子

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活行為学Ⅱ		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	谷 渕 加奈子
授 業 の 概 要				
・生活行為の視点を基にした観察力を養い、記載できることを目指す ・評価法の目的・方法を学び、実習で使えるようにする				
授業終了時の到達目標				
・生活行為学Ⅰで学んだ視点を生かして観察・考察ができる ・各種評価法の特徴を理解し、使用できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、生活行為に求められる要素について基本的な考え方を身につけられるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
他の教科で学んだ疾患の知識を評価の視点と関連付ける				
回	テ ー マ		内 容	
1	ADLを構成する基本動作の観察1		姿勢の観察・記録	
2	ADLを構成する基本動作の観察2		寝返り～起き上がりの観察・記録	
3	ADLを構成する基本動作の観察3		起立・着座の観察・記録	
4	ADLの観察1		食事の観察・記録	
5	ADLの観察2		整容の観察・記録	
6	ADLの観察3		更衣の観察・記録	
7	ADLの観察4		排泄の観察・記録	
8	ADLの観察5		入浴の観察・記録	
9	ADL評価法1		BIとFIM	
10	ADL評価法2		BIとFIM、FAI	
11	ADL評価法3		QOL	
12	IADLの観察・評価1		調理活動計画 ※課題	
13	IADLの観察・評価2		片麻痺を想定した調理活動実施・評価	
14	ICF		ICFからみる、活動と参加の視点	
15	介助法		動作支援の基本と方法	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法学ゴールドマスターテキストADL（メジカルビュー）、COPM・AMPSスターティングガイド（医学書院）		期末試験 課題	90% 10%	課題提出期限遅れは採点の対象とならない

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活行為向上マネジメント学		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
・ MTDLPを用いた作業療法の考え方を身につける ・ MTDLPの各シートの使用方法を理解し、記入できる ・ 事例を通し、作業療法の臨床思考過程への理解を深める				
授業終了時の到達目標				
・ MTDLPを用いて対象者の活動や参加に焦点を当てる評価及びアプローチについて身につける ・ 地域でOTがその専門特性を生かして、どのように活躍できるか事例を通じてイメージできる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験。 これまでの作業療法経験を活かし、作業療法の臨床思考過程について基本的な理解ができるよう指導する。			
時間外に必要な学修				
・ ADL、IADL評価の視点やICFの復習など。				
回	テ ー マ		内 容	
1	生活行為向上マネジメントとは（MTDLP）		MTDLPの特徴・評価の流れ	
2	マネジメントシートの作成 1		マネジメントシートとICFの概念 1	
3	マネジメントシートの作成 2		マネジメントシートとICFの概念 2	
4	目標・プラン設定		合意目標と生活行為工程分析 プラン作成の考え方と方法	
5	演習事例 1		演習事例をもとに読解	
6	演習事例 1		データ入力・グループワーク	
7	高齢者との交流		MTDLPを活用した面接の練習	
8	高齢者との交流		結果の解釈とふりかえり 課題①	
9	文献抄読		MTDLPを使用した文献を読み、説明を行う	
10	演習事例 2		事例検討	
11	演習事例 2		データ入力	
12	演習事例 2		グループワーク・発表・フィードバック 課題②	
13	演習事例 3		事例検討	
14	演習事例 3		データ入力	
15	演習事例 3		グループワーク・発表・フィードバック 課題③	
教科書・教材		評価基準		評価率
事例で学ぶ生活行為向上マネジメントシート（医歯薬出版）		課題		100%
				その他 課題提出期限遅れは採点の対象とならない

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢学		作業療法学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
切断者とその家族が、安心かつ安全な日常生活が送れるように支援するための知識や技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・切断についての基本的知識、治療方法、作業療法について理解する ・義肢における作業療法の役割について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	切断		切断者の現状 切断部位の選択 切断原因疾患を知り予後を学ぶ	
2	切断		切断術 疼痛の特徴と評価	
3	切断		切断者のリハビリテーション 断端訓練と日常生活指導	
4	下肢切断		下肢切断の現状と療法	
5	義足		臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習	
6	義足		臨床場面でよくみる義足の種類 アライメントなど必要な知識の学習	
7	義手		義手の支給制度 義手の構造・部品	
8	前腕義手		前腕義手の特徴	
9	前腕義手		チェックアウト 事例紹介	
10	上腕義手		上腕義手の特徴 チェックアウト	
11	上腕義手		事例紹介 肩・肘・手義手の特徴	
12	義手訓練		義手装着訓練	
13	電動義手		筋電義手の特徴と訓練	
14	電動義手		筋電義手の訓練方法	
15	まとめ		O Tに必要な義手知識	
教科書・教材			評価基準	評価率
・義肢学（医歯薬出版株式会社） ・義肢装具のチェックポイント（医学書院）ほか			期末試験	100%
				毎時間の復習を大切にする

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
装具学実習		作業療法学科／2年	2025／後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
適応疾患の知識を含め、装具の種類・装具療法を理解した上で、作成に必要な基礎知識を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
適切な装具の選択ができ、スプリント作製により、手順・チェックアウト・訓練の実際を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。		
時間外に必要な学修				
疾患の復習をしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	装具学概論		装具の定義・歴史・目的・分類・制度	
2	装具概論		解剖学の復習	
3	スプリントの基礎知識		装具に必用な基礎知識	
4	上肢装具		上肢装具総論	
5	上肢装具		指装具の適応と機構	
6	上肢装具		装具作成（パディー セーフティーピン 8の字他）	
7	上肢装具		手部指装具の適応と機構 事例紹介	
8	上肢装具		装具作成（RA）	
9	上肢装具		手関節装具の適応と機構 事例紹介	
10	上肢装具		装具作成（掌側・背側用）	
11	上肢装具		対立装具の適応と機構 事例紹介	
12	上肢装具		装具作成（短対立装具）	
13	上肢装具		把持装具 症例紹介	
14	上肢装具		装具作成（手関節駆動式）	

回	テ ー マ	内 容		
15	上肢装具	肩肘装具		
16	上肢装具	肩関節・肘関節疾患		
17	下肢装具	下肢切断		
18	下肢装具	下肢装具の特徴		
19	下肢装具	C V Aにおける装具療法		
20	下肢装具	C V Aにおける装具療法		
21	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（骨折・熱傷）		
22	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（腱損傷・CVA）		
23	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（RA・末梢神経損傷）		
24	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（脊髄損傷）		
25	スプリンティングの実際	症例プレゼンテーション（肩障害）		
26	スプリント作成	作成上の知識の確認		
27	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
28	スプリント作成実習	症状にあわせた装具作成		
29	OTの役割	OTの役割		
30	まとめ	事例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 装具学（医歯薬出版） ・ ハンドセラピー（メディカルプレス） ・ 装具作業療法入門（医歯薬出版） ・ 各ジャーナル		期末試験 実習・実技評価	90% 10%	作成課題必修

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法総合論		作業療法学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	大川 麻美／廣永 大祐
授 業 の 概 要				
国家試験に合格するための総合的な科目の復習				
授業終了時の到達目標				
国家試験に出題される全ての分野を理解し、国家試験に合格する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生に分かりやすく説明する。			
時間外に必要な学修				
今までに学んできた全ての科目の復習をすること				
回	テ ー マ		内 容	
1	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（循環器系①動脈②静脈）	
2	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（循環器系③リンパ系④心臓）	
3	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（循環器系⑤循環の生理学）	
4	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（循環器系⑥心臓の刺激伝達系・心電図⑦血液、免疫）	
5	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（消化系①消化酵素②口腔、摂食嚥下）	
6	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（消化系③胃の構造と生理機能）	
7	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（消化系⑤小腸・大腸の構造と生理機能⑥排便機構）	
8	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（消化系⑦肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能）	
9	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（泌尿器系①泌尿器の構造）	
10	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（泌尿器系②腎臓の構造と機能③排尿機構）	
11	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（生殖器系①生殖器の構造と機能）	
12	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（呼吸器系①呼吸器の構造②肺機能検査と肺気量）	
13	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（呼吸器系③呼吸生理と呼吸循環調節系④酸素解離と酸塩基平衡）	
14	国家試験対策（基礎医学）		解剖生理学（代謝①基礎代謝と代謝当量②エネルギー代謝）	

回	テ ー マ	内 容		
15	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（代謝③糖質代謝、体温調節）		
16	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（内分泌系①ホルモン②分泌器官）		
17	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（発生と組織①細胞の構造と染色体および細胞膜電位②発生）		
18	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系①中枢神経②大脳皮質の機能局在）		
19	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系③大脳基底核④大脳辺縁系⑤脳波）		
20	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系⑥脳幹⑦小脳）		
21	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（中枢神経系⑧脊髄⑨脳室⑩伝導路）		
22	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系①神経線維②脳神経）		
23	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系③反射④自律神経）		
24	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系⑤体性神経⑥神経筋接合部）		
25	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（末梢神経系⑦腕神経叢、要神経叢）		
26	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（骨格筋①構造②筋線維の特徴）		
27	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（骨格筋③運動単位④筋収縮⑤筋紡錘）		
28	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（感覚①体性感覚②視覚器③聴覚器）		
29	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（体表解剖）		
30	国家試験対策（基礎医学）	解剖生理学（まとめとテストについて）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 臨床医学 OT学 OT治療学（医 歯薬出版）		期末試験	100%	分からないことは 質問し理解を深 め、国家試験合格 を目指すこと

地域作業療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
住環境整備論		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
・ 障害者・高齢者を取りまく住環境について、現状の問題点を抽出するための知識、技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
・ 障害者・高齢者を取り巻く住環境について現状の問題点を抽出し、そこから今後の課題について考察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床経験を活かし、学生がイメージしやすいような授業の展開を実施する。			
時間外に必要な学修				
フィールド調査を行うための計画、実習、フィードバックを中心に授業を展開する [事前準備]住環境について、授業全体を通し事前に予習を行う				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 総論 ・ バリアフリーとユニバーサルデザイン		・ バリアフリーとユニバーサルデザインについて	
2	・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度		・ ハートビル法・交通バリアフリー法・バリアフリー新法 ・ 障害者総合支援法 ・ 社会保障制度	
3	住環境について （在宅、施設での生活場面） 1		・ 住環境（入院、在宅、各施設）の種類や違い、 メリット・デメリット	
4	住環境について （在宅、施設での生活場面） 2		・ 住環境（入院、在宅、各施設）の種類や違い、 メリット・デメリット	
5	介護保険（住環境、福祉用具） 住環境整備の考え方と進め方 1		・ 介護保険下における住宅改修の進め方を理解 ・ 住環境整備におけるOTの役割と姿勢	
6	住環境整備の考え方と進め方 2		・ 移動補助具使用時の有効幅 ・ ADL場面での基本的な住宅改修方法	
7	住環境整備の考え方と進め方 （実技）		移動補助具（歩行器、車椅子、杖）使用時の有効幅の確認	
8	フィールド調査 1		グループ課題：住宅展示場へ行き、住宅改修のポイントを学ぶ	
9	フィールド調査 2		計画書作成	
10	フィールド調査 3		実施 1	
11	フィールド調査 4		実施 2	
12	フィールド調査 5		振り返りとまとめ ポイントの説明 見取り図の作成	
13	フィールド調査 6		調査発表準備	
14	フィールド調査 7		発表	
15	総括・テストに向けて		住環境整備論のまとめと復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書） OT・PTのための住環境整備論（三輪書店）		レポート	100%	校外での活動を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域作業療法学		作業療学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下 良二
授 業 の 概 要				
地域社会での保健・医療・福祉について理解し、作業療法を必要としている人によりよい作業療法を提供できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
地域作業療法について説明でき、他職種との連携、課題について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 作業療法士としての経験を活かし、地域での作業療法について指導する			
時間外に必要な学修				
次回の範囲についてテキストを確認する				
回	テ ー マ		内 容	
1	地域作業療法学総論 地域医療について		地域医療について考える 地域リハビリテーションの定義	
2	地域包括ケアシステム		地域包括ケアシステムの概要を理解する	
3	地域ケア会議について ①		地域ケア会議について理解する	
4	地域ケア会議について ②		模擬的に地域ケア会議を行い、地域で働く多職種について理解する	
5	介護予防と訪問リハビリについて		介護予防に関わる取り組みや訪問リハに関する知識を習得する	
6	地域との関わり ①		地域の自治会などに作業を通してかかわっていく	
7	地域との関わり ②		地域の自治会などに作業を通してかかわっていく	
8	地域の高齢者との関わり		地域の高齢者とのかかわりの中で地域作業療法を理解する	
9	地域の学童との関わり		地域の学童とのかかわりの中で地域作業療法を理解する	
10	フィールド調査 ①		フィールド調査の目的と計画を立てる	
11	フィールド調査 ②		フィールド調査の実施	
12	フィールド調査 ③		フィールド調査のまとめ	
13	地域で生活している障害を持つ人との関わり ①		地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ	
14	地域で生活している障害を持つ人との関わり ②		地域で生活している方の講演を聴き、地域で暮らすことについて学ぶ	
15	地域作業療法のまとめ		地域の作業療法士としてどのように関わっていくか考える	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
地域作業療法学（メジカルビュー社） プリント配布		課題・レポート	100%	講義内容によっては学外での活動を行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉用具学		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	多田 晃平
授 業 の 概 要				
・ ICF（国際生活機能分類）を理解し、環境因子が生活面にどのように影響するのか理解する。 ・ 障害者の身体機能、生活環境、経済力、社会資源などを幅広い適合性を正確に評価できる。 ・ 移動及び移乗関連用具・排泄関連用具・入浴関連用具・コミュニケーション関連用具・更衣や整容関連用具・食事関連用具・自助具について理解する。				
授業終了時の到達目標				
・ 障害者、介助者、家族に対象と福祉用具の情報を的確に伝えることができる。 ・ 適合性を評価して上で、福祉用具を選定し、導入することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験。臨床での福祉用具の作成、使用経験を活かし、学生にイメージしやすい授業展開を行う。		
時間外に必要な学修				
テキストを使用しての予習を行う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	福祉用具の定義と介護保険の福祉用具貸与・購入（制度）について		オリエンテーション 福祉用具の定義 介護保険制度の福祉用具	
2	移動関連用具について		杖の種類、選定、調整、使用方法	
3	車椅子について		車椅子の種類、名称、特徴、使用方法、メンテナンス	
4	移乗関連機器		トランスファーボード、リフト、スライディングシート	
5	シーティング		シーティングとは シーティングの条件・目的 車いす適合 シートクッションの調整	
6	排泄関連用具について		排泄関連の説明、使用方法、選定の仕方	
7	入浴関連用具について		入浴関連用具：バスボード、シャワーチェア、シャワーキャリー、浴槽用手すり など	
8	コミュニケーション機器と環境制御装置について		コミュニケーション機器：トーキングエイド、文字盤、メッセージボード など	
9	高齢者・障害者の衣服		高齢者・障害者の衣服について	
10	褥瘡予防関連用具について		褥瘡とは マットレスの特徴 クッション	
11	ポジショニング		ポジショニングとは 姿勢の理解と特徴 ポジショニング実践	
12	自助具について		説明と自助具の紹介 自助具製作に向けての説明	
13	自助具の製作作業①		各自が考案した自助具の製作 レジュメの作成 発表準備	
14	製作した自助具の発表①		制作した自助具についてレジュメをもとに各自発表	
15	製作した自助具の発表② まとめ		発表の続き まとめ 試験について	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリントほか		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
就労支援技術論		作業療法学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	馬場 広志
授 業 の 概 要				
職業リハビリテーションの概念を学び、就労支援に関連する制度や支援技術、各障害に対する作業療法の流れを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
障害者の就労支援に関連する制度や作業療法評価、支援について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の実務経験 これまでの作業療法士としての臨床経験を生かして指導する。		
時間外に必要な学修				
・ 障害者の職業に関するニュースや情報に目を向けておきましょう。				
回	テ ー マ		内 容	
1	作業療法士による就労支援の概要		就労支援に関する理論（リカバリー、ストレングスなど） 作業と健康の視点	
2	就労支援を支える社会資源		障害者総合支援法 就業支援から定着支援、支援サービス概要	
3	障害者総合支援法における就労支援サービス 1		就労移行支援	
4	障害者総合支援法における就労支援サービス 2		就労継続支援 就労定着支援	
5	就労支援施設とその業務 1		ハローワーク	
6	就労支援施設とその業務 2		障害者就業・生活支援センター 障害者職業センター	
7	就労支援の方法		職場適応援助者（ジョブコーチ） リワーク	
8	就労支援に関する評価		作業療法評価 職業興味評価	
9	障害別の就労支援 1		発達障害に対する就労支援	
10	障害別の就労支援 2		知的障害に対する就労支援	
11	障害別の就労支援 3		統合失調症、うつ病に対する就労支援	
12	障害別の就労支援 4		身体障害に対する就労支援	
13	障害別の就労支援 5		高次機能障害に対する就労支援	
14	就労支援の現場で学ぶ		就労移行支援事業所について	
15	まとめ		国家試験問題を通して知識を確認	
教科書・教材			評価基準	評価率
プリント配布			期末試験	100.0%
				その他
				各障害の特徴も理解しよう。

臨床実習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
見学実習Ⅰ		作業療法学科／1年	2024／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位（45時間）	必須	廣永 大祐
実 習 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。				
実習内容				
第1学年前期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。				
1. 実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
見学実習Ⅱ		作業療法学科／1年	2024／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位（45時間）	必須	廣永 大祐
実 習 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
実習の手引きを熟読し、実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日の課題と予習を行うこと。				
実習内容				
第1学年後期に行われる臨床場面での実習であり、将来学生が作業療法士になる上でその資質・適性の有無を判断する機会を持つために、作業療法業務の部分的体験および見学を行うものである。可能な限りMTDLPのシートなどを活用しながら面接などを体験する。				
1. 実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の業務内容を見学する。 施設の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで対象者への問診や検査測定など作業療法士の業務体験を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、「実習にあたっての心得」を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 「デイリーノート」を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 可能な限りMTDLPの「生活行為聞き取りシート」などを使用して対象者と面接を行う。				
5) 各施設での実習終了後、学校で行われるセミナーに出席し、各自の実習施設について必要な報告発表を行う。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価実習		作業療法学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	15回	3単位（135時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 記録・報告をすることができる。 4. 管理・運営について理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	作業療法士として5年以上の実務経験及び臨床実習指導者講習会を受講し認定を受けた者 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う				
実習内容				
第2学年に行われる臨床場面での実習で、対象者の心身諸機能・日常生活活動等の生活面・対人交流等の社会面を把握する評価の実施及び作業療法士の役割と機能を部分的に実践する実習である。 カリキュラムの進行状況から、基礎的な評価の目的の把握や各検査項目を確実にこなすこと、生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）を活用し、臨床実習指導者の臨床思考過程を理解することに重点がおかれる。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。				
2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 『デイリーノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
4) 『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。				
5) 可能な限りMTDLPの「生活行為課題分析シート」など使用しながら「生活行為向上マネジメントシート」にまとめていく。				
6) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。				
7) 各施設での実習終了後、学校でMTDLPに基づいてケースレポートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習の手引きを熟読し、実習生として相応しい態度で臨むこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合臨床実習Ⅰ		作業療法学科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	60回	10単位（450時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての常識的態度を身に付ける。 2. 作業療法評価計画を理解することが出来る。 3. 評価結果を整理し全体像を把握することが出来る。 4. 治療環境を設定し、治療プログラムを遂行することが出来る。 5. 管理・運営について理解することが出来る。 6. 記録・報告をすることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ ケースノートの記載				
実習内容				
総合臨床実習Ⅰは、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などをMTDLPなどの活用を通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。また、評価結果統合と解釈（考察）を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。				
2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。				
3) 『デイリーノート』及び『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。また可能な限りMTDLPの各シートを使用してケースの情報をまとめていく。				
4) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。				
5) 各施設での実習終了後、学校で症例報告シートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合臨床実習Ⅱ		作業療法学科／3年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	60回	10単位（450時間）	必須	大川 麻美
授 業 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
実習終了時の到達目標				
1. 職業人としての常識的態度を身に付ける。 2. 作業療法評価計画を理解することが出来る。 3. 評価結果を整理し全体像を把握することが出来る。 4. 治療環境を設定し、治療プログラムを遂行することが出来る。 5. 管理・運営について理解することが出来る。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 他部門連携や施設の特徴について理解できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
自己学習とデイリーノートのまとめ ケースノートの記載				
実習内容				
総合臨床実習Ⅰは、第3学年に行われる臨床場面での実習であり、当校で学習した知識と技術・技能および態度を臨床における作業療法体験により統合する課程である。 学生は臨床実習指導者の指導のもとに、対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などをMTDLPなどの活用を通して、作業療法士としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高めるものである。				
実習学生としての役割と責任				
1) 臨床実習指導者のもとで作業療法士としての役割と責任を部分的に実践する。 作業療法部門の日課に参加し、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法士の診療補助体験や、対象者への問診、検査測定等の評価を行う。また、評価結果統合と解釈（考察）を行い、目標の設定と治療プログラムを立案し作業療法の成果を確認する。必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 2) 実習施設における態度、行動については、『実習にあたっての心得』を参照し、各施設の規則を遵守する。 3) 『デイリーノート』及び『ケースノート』を作成し、臨床実習指導者のチェックを受けた後、学校に提出する。また可能な限りMTDLPの各シートを使用してケースの情報をまとめていく。 4) 実習終了時『臨床実習成績報告書』の中の学生意見を記入し、臨床実習指導者と話し合う。 5) 各施設での実習終了後、学校で症例報告シートを作成し、各自の実習経験と併せてセミナーにて報告発表を行なう。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実習の手引き ・学生の心得 ・配布資料		実習成績表の判定：実習・実習前オリエンテーション・実習報告会の出席状況と学習成果状況により総合判定	100%	実習前後に客観的臨床能力試験を行う。

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
作業療法学科

令和7年度

授 業 概 要

2025年4月 発行

発 行 者 専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
〒761-8056 香川県高松市上天神町722-1
TEL:087-815-3300 FAX:087-815-2111
URL:<http://www.anabuki-college.net/ark/>